2018.3 Vol.4

### 新しい地域文化研究の 可能性を求めて

人間文化研究機構 日髙真吾編

人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト 「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」

# 新し

# い地域文化研究の可能性を求めて

はじめに

挨拶

セッション1

地域文化を発見する

台南市 "大目降"の再発見-

-市民活動の視点から

宮城県波伝谷の地域文化を発見する-

日髙 黄 真吾 貞燕 9 7

政岡 康 伸洋 文榮

26 10

-日本の民俗学からのアプローチ

竜介

コメント

仕淵 42 34

小谷

謝

### 表紙写真

避難所で作った座布団製獅子頭 (女川町 2013年9月) 提供・小谷竜介 \*詳細は 37 頁参照

セッション2 地域文化を保存する

宜蘭県大二結の文化資産の取り組み 町の記憶と保存活動 日高 林

石川県穴水町の文化遺産を保存する--保存修復の視点から

末森

薫 82 77

許

主冠

真吾 奠鴻

59 46

コメント

セッション3--地域文化を活用する

地域資料展示と大学との共同作業の可能性 京都市登録有形民俗文化財

「久多の山村 生活用具」の展示を通じて 伊達 仁美

博物館のあり方としての「共学」:大渓の地域参加型博物館を例として 陳 倩慧 103 90

コメント 平井京之介 貞燕 120 114

セッション5 大渓における実践事例と活動の実態

パブリック・ヒストリーを主軸とした地方史

大渓木芸生態博物館の四連棟常設展

芸術、生活と古い家の保存と活用 大渓の源古本舗の再生計画 古温 正君 欣琳 146 140 131 123

民家と家族の記憶と技能し ―家からまちかど博物館へ

劉

清剋

林

-蘭室を例として

学習の資源としての地域文化-

日髙 真吾 153

おわりに

### はじめに

# 日髙 真吾(国立民族学博物館准教授)

本全体を覆っている閉塞感を打破する、あるいは、乗り越えようとする動きが注目されているの すものでは決してありません。そこで、いま一度、それぞれの地域が活性化することにより、日 うな閉塞感は、いろいろな地域で生活する私達にとって、精神的にも経済的にも豊かさをもたら が東京へと一極集中し、国全体が閉塞感に覆われてしまっているということがあります。このよ 現在日本では、地域に着目した活動が注目されています。その背景には、情報や経済活動など

とのあいだに様々な摩擦を引き起こしています。 文化を崩壊させてしまいかねないケースが生まれています。その結果、新たな地域で生きる人び 多発する災害において復興の名のもとに行われる地域再編が、これまで連綿と築かれてきた地域 一方、地域の現状を見つめ直すと、社会全体のグローバル化に伴う変貌は著しく、 さらには、

象システムの構築」というプロジェクトを立ち上げました。 するという実践的な研究活動を展開するために、「日本列島における地域文化の再発見とその表 そこで私達は、これらの問題の解決策として、 地域で育まれてきた文化を発見し、保存、活用

目されており、これらの事例が豊かな地域創生に大きな広がりをもたらす可能性を有するものと ていきます。このような実践的な活動は、日本では特に東日本大震災からの地域復興のなかで注 文化を創生し、豊かな地域社会を育てていくという活動の意義について、学問的にアプローチし して、人間文化研究においても大きな領域となっています。 ここでは、新旧の住民を軸にしながら、大学や博物館の研究者が協力することで、新たな地域

8

とおして地域学、 て、議論を深めてゆきたいと考えています。 そこでこのフォーラムでは、地域文化の発見、保存、活用について、台湾と日本の実践事例を 博物館学、人類学、 そして民俗学の観点から人間文化研究の果たす役割につい

### 挨拶

# 黄 貞燕(国立台北芸術大学准教授)

え方と日本の考え方はかなり異なっている感じがするという、日髙先生の意見をお聞きし、 の異なる考え方を取り入れようと思ったからです。 なぜ今回のフォーラムが開催されるのかというと、地域文化の活用や保存について、台湾の考

話ができたらいいと思っています。 さんに知っていただきたいと思います。今回のフォーラムを通して、地域文化に関して面白い対えてお話いたしません。ただし、台湾と日本には、違う観点があるということをあらかじめみな 域文化のこと、地方文化の保存、 日本の考え方は、「はじめに」の日髙先生のお話にもあった通りですが、では、なぜ台湾は地 活用などに関して考えるかということについては、ここでは あ

化に興味をもっているから、このような小さな町にやってきたわけです。地域文化をどのように 発見し、保存し、 回はこの大渓で開催することにいたしました。交通条件なども便利だとは言えませんが、地域文 こういったフォーラムは、台中や台北、高雄といった都会で行われることが多いのですが、 活用していくのか、この大渓の何年間の努力に注目します。

それをふまえ、 今回のフォーラムで意見交換をしていただきたいと思います。

9

## セッション1 地域文化を発見する

# 宮城県波伝谷の地域文化を発見する 日本の民俗学からのアプローチ

政岡 伸洋(東北学院大学教授)

## ◎東日本大震災と民俗学

するものです。そして四つ目が文化財レスキューなど被災地への支援で、 スキューは特に注目を集めてきました。 東日本大震災に対して、私が専門としている民俗学では次の四つの研究が行われてきました。 そして二つ目は、震災後の動きを記録するものです。三つ目が近代文明の限界を論じようと つは被害の状況を語り継いでいくという作業、 記録 (記憶) に残していこうということで なかでもこの文化財レ

文化財の保護というものを軸にシステムとして行なわれてきた活動です。 文化財レスキューは、あくまでも文化財行政の枠組みのなかで、被災地側のニーズというより、

ものを軸に考えていこうとする点に大きな特徴があります。 それに対して、 私が専門としている民俗学では地域に起こる様々な現象に対して暮らしという

で震災から五年が経った現在、被災地への支援活動の成果をどう学問的につなげていくか、そこ の一つになろうかと思います。 から何を考えていくかということが、大きな課題になっているかと思います。本報告がその試み つまり、この二つのあいだには、厳密にいえば距離があるのではないかということです。そこ

に、そこから見えてきた学問的課題についても考えてみたいと思います。 報告者が体験した支援活動とそのプロセスのなかでの地域文化の再発見の事例を紹介するととも を考える点でも非常に重要な機会となりました。そこで、震災後の波伝谷での動きをふまえつつ、 と呼ばれる民俗行事への支援活動は、 このような状況に対して、報告者が行った宮城県本吉郡南三陸町戸倉波伝谷での、オネンブツ 単に被災地支援という枠組みを超えて、 地域の民俗の意味

文化の特徴について明らかにしたいと考えます。 り行ったものでしたが、なぜオネンブツの道具類だったのかを分析することで見えてきた、 地域性を反映させた方法を模索し続けていったわけですが、そのプロセスを紹介していきます。 ネンブツへの支援依頼にいたる動きを、春祈祷の復活を軸に紹介していきたいと思っています。 そして3番目に「なぜオネンブツの支援だったのか」。今回の支援活動は現地からの要望によ 二番目は「支援の方法を考える」。波伝谷への支援については、震災前からの関係性もあり、 まず「波伝谷にとっての東日本大震災」。ここでは、震災前の暮らしの特徴をふまえつつ、

ついても考えていければと思っています。 そして、これらを通して、被災地の支援活動を学問そのものの議論につなげる方法の可能性に

### ◎震災前の波伝谷

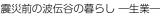
初に震災前 の波伝谷の暮らしに対する理解について報告したいと思います。

ていました (二〇〇〇年現在)。 南岸の戸倉半島に位置しています。 今回とりあげる南三陸町戸倉波伝谷地区は、 震災前の戸数は八二世帯、 リアス海岸で知られる三陸沿岸の南部、 人口 は二八四名というふうになっ 志津川湾

その成果を『波伝谷の民俗 敷民俗資料館の鈴木卓也先生との共同で総合民俗調査を始めました。そして、二〇〇八年三月に 東北歴史博物館から刊行しました。 民俗学研究室と、 に東北学院大に民俗学の担当教員として赴任しました。そして、 私と波伝谷との関わりについて少し述べておきたいと思います。 今回コメントしていただく東北歴史博物館の小谷竜介先生、 |宮城県南三陸沿岸の村落における暮らしの諸相| 翌年の三月より、 私は二〇〇四年四月 そして波伝谷高屋 -」としてまとめ、 東北学院大学

最大限に活用した暮らしが営まれてきたということです。 農業を軸としつつ、 が中心になっていて、各家の自立性が非常に顕著であるということです。歴史的展開を見ると、 その結果についてポイントをまとめてみると、 製塩業、 養蚕、 養殖というかたちで、 生業は、 各時代のニーズにあわせ、 ホヤ・カキを中心とした養殖業と農業 自然環境を

コミュニティーというより、 社会組織で注目されるのは契約講です。 むしろ各家の利害調整の場として機能してきたといえるかと思いま 春と秋の年二回、 総会があり集まっていたのですが、





農業



養蚕



養殖

するということがあげられます。 契約講に加入すると、 す。そして、とくに行政との折衝は必ずこの契約講を通して行われていました。契約講の構成員は、 りが結婚すると、 妻は観音講にはいる、 脱退し六親講に加入します。さらに今日の報告に関わるところでは、 そして、 夫が六親講員になると、 妻は念仏講に加入

が関与し、 内の厄災を払うというものですが、 て位置づけられてきました。 そして、 春祈祷と呼ばれる行事があります。 代間交流の場ともなっています。 暮らしのなかでのポイントとしては、 若者達による獅子舞が各家を一軒ずつ回 つまり、 波伝谷の人びとをつなぐ重要な行事とし 波伝谷の様々な人びと b,

### 震災による被害状況



波伝谷の被害状況



養殖関係の被害状況 (戸倉全体)

点です。

消滅してしまい、

人びともばらばらになっ

11

ったとい しが完全

ここでおさえておくべきは、

津波により

暮ら 7

四日に内陸部へ遠隔地避難が開始されます。

割分担を明確化し、

共同避難生活が始まります。

そして

兀

移動します。

避難所で暮ら

して一週間くら

13

した頃に、

みを少し振り返りたいと思います。 た集会場が、 仮設住宅が完成します。 このようななか、 くということです。 その後八月になると、 波伝谷の 契約講が再開されるのですが、 人びとが集まる重要な場所になっ 特にポイントは、 復興にむけ ての 歩みが進み始め、 ここでつくられ その歩

が出てくると、 が必要との話になります。 そして二〇一二年三月四日に海洋青年の家にて総会が開 度は休講になります。 遠隔地避難が開始される前の四月一日に貯金を分配し、 やはり行政との折衝がありますので契約講 しかし、 ○月頃に高台移転の話

新役員も承認され再出発することになります。

### 震災前の波伝谷の暮らし 一社会組織一



契約講

### 震災前の波伝谷の暮らし 一春祈祷一



◎波伝谷にとっての東日本大震災

波伝谷に対する理解であったわけです。

ということになります。

震災前に調査した私達の

が

が

地区全体あわせてですが、 津波に襲われた波伝谷では、 のような波伝谷も、 その状況をお話していきたいと思います。 十六名が犠牲になりまし 東日本大震災で大きな被害を受け 高台にあった一戸 億四八〇〇万円ほどの被害 た。 養殖関係では、 を残

戸 倉

の後津波が襲うわけですが、 がでました。 ようやく落ち着い の地 震直後は、 た翌一二日の午前中に避難所 近 晩中津波がきてい < の高台へ避難 します。 たという

著であるがゆえに、 非常に顕著な生業があるということ。 わせ、自然環境を最大限に活用しつ 上をまとめると、 さらに、そのなかで人びとをつなげる春祈祷がある 家々の利害調整の場とし 波伝谷の暮ら これが、 しは、 そして、 2 各家の 時代の ての契約講 独自性が顕 独自性 ニーズ



養殖業における復興支援事業の特徴 養殖業の復興支援事業「がんばる養殖」



仮設住宅をまわる春祈祷

たのです。 性の差が露骨にあらわれ、これを原因とするトラブルも発生 各家のそれぞれの方法、技術がぶつかり合う状況になって て地域をバラバラにしてしまうような状況が生まれてしまっ 転換の必要性はなかったのに、協業化することにより、 きました。 人のあいだに伝わったことがきっかけなのですが、 このような混乱のなか、春祈祷が復活することになります。 震災前の暮ら 互い しをモデル の経験や知識を共有できる反面、 に生活再建を模索してい 技術 かえっ や効率

住宅をまわっていくかたちで春祈祷が行われます。 動きがでてきます。 なかで地域の団結をはかろう、 「春祈祷を思いだして涙を流した人がいる」という話が若 そして、 二〇一二年の四月一五日に仮 春祈祷を復活させようという そういう 設 61

達がこれまでの混乱のなかで強いられてきた日頃の苦労を忘 いく本来のかたちとは微妙に違うのですが、 仮設住宅を単位にまわっていくかたちは、 出迎えた人、 食事の準備をする女性達、 それでも、 各家をまわって す ,べての人 参加

### 契約講の「復活」



ました。

つまり、

たものが、

共同作業をし、給料をもらうようなかたちになり

企業で働く従業員のようなかたちに変えら

波伝谷仮設住宅の完成



伝谷の従来の方式とは大きく異なります。従来個人経営であっ 始されます。これが、「がんばる養殖」というものですが、波 前の暮らしをモデルに生活再建へ進もうとしている点です。 ワカ ていきます。 瓦礫の撤去が行われ、 そういうなかで、 しかしこのような状況のなか政府による復興支援事業が開 メの種をつくったり、カキ養殖再開の準備を始めたりし ここでおさえておいていただきたい 仕事も再開され 並行して流れ着いたメカブを利用 いきます。 のが、

れていってしまったということです。 うことで、転職と同じ感覚であったかと思われます。ここでは くということです。 具体的にどういうところで混乱が起こって やるほど収入があがる従来の方式から給料制に移って 個人経営からサラリ 11 マンになるとい くかというと、

は各家の利害調整、行政との折衝という震災前の契約講の役 れます。 割を活用 またそれに期待するような動きであると理解

ž

7

五.

六月に

7

活することによって、困難を忘れるような状況が生まれたということになります。 れ、震災前に戻ったかのような明るい笑顔をしていたのが印象的でした。こういう民俗行事が復

春祈祷が一番ふさわしいのではないかということになって、この春祈祷を活用して、 なった状況に対応したということが言えるのではないでしょうか。 がバラバラになってゆくなかで、つなぎとめるものを、震災前の暮らしのなかから探したときに、 うな印象を受けます。マスコミでもそういうふうにとりあげられました。しかし実際は、「復活」 この春祈祷の復活をどういうところに位置づけるか、まずは、震災前の暮らしが戻ったかのよ なく、 混乱 のなか、震災前の暮らしを活用し「創出」したものといえるかと思います。 バラバラに

の支援が行われました。 以上が震災後の波伝谷の動きになるのですが、 このようななか、 今回とりあげる、 オネンブツ

## ◎「支援の方法を考える」

二〇一三年の五月二八日で、 それまで私自身もいろいろと波伝谷のみなさんにお世話になっていましたので、 何をどのように支援したらよいのか具体的な案は思い浮かばない状況でした。 何かできないか模索していました。そのなかで、震災後最初に波伝谷にうかがったのが その後一一月二六日、一二月四日と訪問したわけですが、この頃は してい

祈祷を復活させたいんだけど、道具などを流されて困っている」というお話をお聞きして、 それが具体化してくるのが、二〇一三年の年末から年明けにかけてです。 ちょうどこの頃、「春 この

味がある協力となるのではないかと思い、そこに支援をしようという動きになっていきます。 的にはあとで紹介しますが、震災前の調査で、契約講および春祈祷が、 きわめて重要であると位置付けていましたので、これからの波伝谷の暮らしにとっても大きな意 春祈祷を支える契約講や戸倉神社への支援ができないかと模索するようになりました。そんなな 二月二七日から二九日に民俗調査で訪問した際、 契約講長に支援の申し出をしました。具体 波伝谷の暮らしにとって

なぜオネンブツの道具類なのか、私自身はまったく理解できていませんでした。 から、オネンブツで使用する大きな数珠などの道具類を何とかできないかという依頼がありまし オネンブッというものが重要であったことを気付かされるわけです。 波伝谷からの支援依頼は初めてで、 こちらからそういうアプローチをしようとしていたなかで、波伝谷仮設住宅の自治会長 非常に驚いたのですが、そこで、 しかし、この段階では 波伝谷の暮らしにとっ

けです。 の寄贈でした。日本仏教会や報告者の母校である佛教大学など、 ただそのなかでもオネンブツの道具類をどう支援するかが大きな課題となりました。そして支 支援してくれるところがなかったというのが結論でした。 どのように道具類を揃えたらいいかということで、まず考えたのが仏教関係の組織から 単純にこちらの発想だけではなく、 地域性を考慮した方法を模索しようと動いたわ いろいろと相談してみたのです

はないということが一つあります。 珠繰りというのは、 オネンブツの道具類への支援が難しいのかという点については、オネンブツの 仏教行事とはいえ、あくまで住民主体の行事であって、寺院側主体の行事で それから、 祭りや民俗行事とは違い、 ひじょうに地味でマス ような数

えないといけないということで、次に思いついたのは、 コミなどにとりあげられにくいというところもあったと思います。 東北地方というのは互酬制が顕著で、返せない場合は支援も断るような極端なケースもありま 「恩返し」という方法での支援でした。 いずれにしても別の方法を考

味で支援するということです。 もあります。 そこで思ったのは、調査の際に協力していただいたことに対する卒業生からの恩返しという意 その頃、 実際に卒業生からも、 一方的な支援は逆に被災地に精神的な負担をかけてしまう危険性 何か支援したいという声が届けられていました。そ



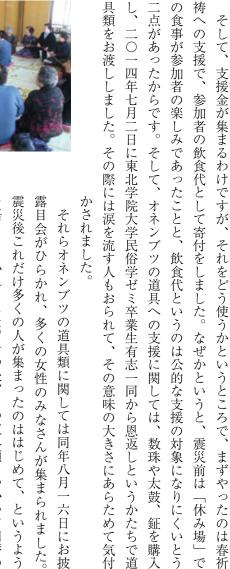




オネンブツの道具類のお披露目







鉦を購入

のなかで、

卒業生からの恩返しというのは、

互酬制の文脈とも整合性をもち、

一番良い方法では

んのは春祈

祷への支援で、

そして、

かと考えたわけです。



震災前のオネンブツ

支援が波伝谷の女性達にとって、 講が行われました。 二月一五日と春秋の彼岸の日に波伝谷仮説住宅の集会所で念仏 な語りもきかれました。その後、この道具類をつかって旧暦の というような流れであったのですが、 大きな意味をもっていたか なぜこのオネンブツの

というよう

ということになります。

そこで震災前のオネンブツについて少し紹介しておきたいと思います。

## ◎なぜオネンブツの支援だったのか

ネン あったということになります。 るのですが、行事に関しては、構成員でなくてもホトケの出た家は、みんな数珠繰りに参加 よいということになっています。 エをつとめ、その際に出される食事の準備等をするのですが、この行事での一番ポイントは、「オ ブツだけは、ほかを嫌わない」という説明がなされる点です。実際には念仏講員が中心にな ネンブツは念仏講とも称され、 つまり、波伝谷の女性全てが関わることのできる唯一の行事で 六親講員の妻によって構成されています。三軒一組でテエマ じて

要な任務である死者達の供養ができないという状況になっていったということです。 災による社会的任務の喪失」があげられます。 ということです。 供養で、各家の墓参りが終わると集まり、テエマエと新たにホトケが出た家は、その位牌を持参 るものをヒガンネンブツといいいます。とくにヒガンネンブツのほうは、直近に亡くなった人の し祭壇に置き、数珠繰りと念仏唱和を行い、 そしてなぜ、このオネンブツの道具類だったのかというところですが、一番大きな点として、「震 行事の具体的な内容は、旧暦二月一五日の行事をシャカネンブツ、春秋の彼岸の中日 供養の場が震災によって失われてしまったということが、 多くの人が津波やその後の混乱のなかで亡くなったにも関わらず、 精進料理をいただくということになっていました。 姑世代が中心となって担ってきた、亡くなった方 いちばん大きかったのではないか 姑世代の重 と同時に、 に行

的な社会弱者として、手助けの対象のように扱われてきたという点があります。 復興支援事業の対象は、養殖業に関するものが中心であって、支援の話も春祈祷が中心でした。 姑世代が中心に担ってきた畑仕事や死者供養は、ほとんど準備されない状況でありまして、 一般

たオネンブツの重要性も再認識されたのではないかということになります。 を集めた春祈祷は、 びつきを再確認しようと、男性中心の春祈祷が復活の動きをみせはじめたとき、女性が前面 でも早く、自らが担うべき社会的役割を果たしたいと思うのは当然のことだったように思います。 そして、もう一つは、オネンブツという行事がなぜクローズアップされたのかという点ですが、 これらをふまえていうと、 全ての女性が関与できる唯一の行事であったということになります。今回の震災で注目 女性が担う仕事もあるにはあるけれど、 東北地方は互酬制が顕著な地域であって、 前面に出るのは男性です。 この点からすれば、 地域の結 に出

ような思いが募ったことは想像に難くないと思います 能性もあります。そして、 の死者供養という点でも、 いくなかで、 二点目も重要だと思います。このオネンブツが死者供養という点を担ってきたわけです 特に姑世代がバラバラになっていった状況も影響し、 これら機能的な側面でも重要視されたと同時に、仮設住宅に入居して 震災後最初に行うのに相応しい行事としてその必要性が強調された可 早く復活したいという

ツの 三つ目として、 「復活」は、 この点からすれば、 震災後の混乱のなか、その矛盾や葛藤の解消のために必要であったということ 「支援依頼の背景に何があったのか」ということですが、このようにオネンブ 春祈祷と同様の背景があったのではないかということになります。

用する、 震災前の民俗を活用したものとして理解するべきということです。そして、その際に、 達がやはりこれは復活させるに足る、 に、そのまま復活したのではなく、その背景には被災地の矛盾や葛藤があり、それに対応すべく、 この時期、被災地では次々と民俗行事や民俗芸能が「復活」し注目を集めたわけですが、単純 そこに地域の暮らしの大きな特徴がでていたのではないかということになります。 または復活させたい、と思わせるような震災前の文化を活 地域の人

地をこんなかたちで支援しました、こういうことをやってみましたという研究が非常に多い。そ 「これだけ貢献しました」という自慢話になりがちです。 なってくるのではないかと思います。そういう点を含めて、支援を巡るプロセスを地域の文脈と れ自体は悪いことではないのですが、 対比で検証していく必要があるのではないかと思います。 最後に、 文化財レスキューを含めた被災地支援の実践例の研究ということですが、ともすれば これをいかに研究の俎上にのせていくかが、 文化財レスキューだけではなく、 重要な課題に 被災

こなかったオネンブツの重要性が、 いうことが言えるのではないかと思います。 いう点からすると、 本報告は、そのあり方の一例をしめすものなのですが、この結果、これまであまり注目されて 支援活動そのものが地域 支援の活動のなかで再確認されたということになります。 の文化をもう一度考え直す実証実践の場であったと

そう考えると、 被災地というのは、もちろん支援をする必要があるのですが、 もしくは地域文化を発見するための、重要な場所にもなっているのではないか、 どんどん活用していってもいいのではないかと思います。 と同時に地域文化を考えるため 学問的にも

して、地域文化を再発見していくことこそ、 いる大きな課題なのではないかというふうに考えています。 被災地の学問的支援そのものも重要なのだけれど、 震災から五年を経た現在、 助けて終わりではなく、その後の分析を通 私達研究者に求められて

これによって被災地支援の学問的重要性がさらに主張できるのではないかと考えています。

### セッション1 地域文化を発見する

### 大目降~ 民活動の視点から の再発見

# 文祭(台南市新化楊達記念館の設立の提案者)

今日の話は、 と」ということです。各コミュニティーの要望、そしていかに平等に発展していくかが重要です。 ある環境で人びとを育てるべきだと」、そして、「みなさんが共有の生命の目的を実現するべきだ らとった話です。私は徐々に文化活動に転向してきたのは、やはり主な考え方は、「愛と尊重の 年になりました。 現在の新化でシラヤの教会の学校が設立されてから三八〇年になりました。また、台湾文学者 私は新化で心身障害を持つ子どもへの支援活動を中心に社会福祉活動をはじめてちょうど二〇 いくつかの数字からはじめたいと思います。 我々は「潰れたヨシが折れない」という信念をもっています。 これは、 聖書か

この大地震では大きな被害が出ました。 の楊逵の生誕一一〇年の年でもあります。 そして、新化大地震があってから七〇年になります。

は最初「大目降(タヴォカン)」と呼ばれていました。 それでは、「新化」というところの地名の沿革についてお話していきたいと思います。「新化」 タヴォカンは、 シラヤ族の言葉で、 山の



設立

紀初頭、

ました。九つの街庄を管轄する「新化街」は、学校教育や、

台南州新化郡「新化街」となり、

新化郡役所が置かれ

一九二〇年の行政区分変更により「大目降」は 台湾総督府直轄の糖業試験場が設立され、

そ

日本時代の総督府中央研究所農業部糖業科は新化で

が、オランダ統治の最後の一六六二年前に、すでになくなったことがわかりました。台湾文学館 大目降社といった五つのグループがありました。大目降社は、 土地、あるいは神という意味もあります。シラヤ族には、新港社、蕭壟社、麻豆社、 の館長がお話くださったのですが、 「新化」がもともと「大目降」であったことを記す本、また 「大目降」がシラヤのふるさとであると記された本もあ いつからあったかわからないです

目加溜湾社、

ります。

民族だけでなく、漢民族も住むようになってきました。 と称されるようになります。この頃には、 呼ばれる時期を経て、清の時代になると、 宣教師も駐在していたわけです。 会の学校をつくり、 ランダに関する教育が行われました。オランダ人が教 オランダ統治時代には、新化でオランダの言語やオ 一九世紀末に日本による統治が始まります。二十世 聖書に関する教育も行われました。 その後、 「感化里」と シラヤ原住 「大目降庄」

27

インフラ設備の中心としてその推進に力を入れていきます。

地元誌を発行したり、 そのため、「大目降」 がなくなり、忘れてしまったと思います。 七十パーセントの人達が賛成しています。 なりました。この「新化鎮」は、台南県と台南市の境目になっているのですが、二○一○年の行 きたわけです。 区を建設しようという計画があるので、二〇一三年にこの工業園区の所在地を含め、新化区など 政的な変更によって、台南市「新化区」になったわけです。そして、この周辺で南部科学工業園 七つの区を「南科区」として合併しようといった計画がありました。それに対して、 第二次世界大戦が終結し日本による統治も終わると、「新化街」は台南県新化区「新化鎮」と から「新化」にいたる経緯について、 「文化が失われていきますよ」というようなテーマで演劇を演じたりし やはり地元の歴史を守らないといけないと思います。 しかし、歴史を関心する私達は、そうなると、 『大日降新化 i n g社区報』 という 「新化」 地元の 7

漢民族化して、社から「庄」「街」になって、 設する話もでてきています。 「新化区」は、 南部にあっ て海にも近いところです。 「大目降」はシラヤ族の居住地 いまは「区」になって、 そのため、 「社」でした、 新しい都市の中心地として建 という行政的な変化があ その後、 シラヤ族が

である保生大帝も、 お寺があったところの写真もあります。 新化の歴史と文化は、 新化で最初に廟が建てられました。 台湾の文化多様性を反映する好例です。 海の神様媽祖のお祭りの写真もあります。 一八六五年に、 地元の宗教を例にす スコットランド 医療の神様 ħ ば、 出身の官 関羽

てきたといった記録がありました。 教者は全部西洋人でしたが、台湾籍の牧師第一号である劉俊臣が、カゴに乗って「新化」 教師ジェームス・マクスウィルがやってきて、 教会をつくったという歴史もあります。 には 最初 いっ宣

始まりの地域であるだけでなく、鉄道会社の運営もここから始まったのです。 日本政府に反抗した噍哖事件がありました。その事件をきっかけに、日本政府がこの地域に注 地理的な環境から考えますと、新化は交通の要所に位置しています。 鉄道会社を開発し、 運営をはじめました。「新化」は先ほどお話した通り、 それから、 13 一九 ろんな教育 一五年に 目 0

要な日本人が四人いました。 々 の調査により、 一九二〇年代の 「新化」は非常に栄えていた時期でした。 そ のなか 13 は 重

者といえます。 まずは、 .のときには詩人の友人に詩を書くように依頼しました。 「新化」における現代教育の創 大目降弁務官を務めた石川弋足氏です。 絵画展を開催したり、 詩集を出版したりもしました。 画家である彼は、 教育の場をつくりまし 設

編纂、三三一件の名勝・旧蹟を紹介し台湾文化の評価に貢献しました。 の改良計画も立てていきました。 のことがありました。鉄道会社、 新化郡第二代郡主の杉山靖憲氏です。赴任した伊一九一六年には『台湾名勝旧蹟誌』を 糖業試験場を運営し、 畜産品の品評会も開催しました。 一九二四年にはたくさん また町

年代に一番盛んになりますが、 そして「新化」では糖業試験場が非常に注目を集めたました。製糖業に関する研究は一九三〇 そのキー パ ] ・ソンが、 金子昌太郎科長です。 彼は 『甘蔗農学』



新化公学校学長の中村亀吉さんの退官前。学校の先生と学生たち

糖業試験場などの写真もあります。

ました。 少年は、 び自分の文学創作をスター 年に台湾に戻り、 と学生運動の萌芽期であり、 ものであったからです。 身の楊逵の生涯は、 夜間部に進学しました。当時日本では労働運動 れ日本に渡り、日本大学芸術学部文学芸術家の 大目降で生まれ、 するイベントをはじめました。それは、新化出 学を代表する一人の楊逵に注目して様々な関連 目降」を再発見しようとした活動は、台灣の文 現在の話に戻ります。 し逮捕された履歴もありました。 のデモに参加し、 噍吧哖事件を目撃し、 それから彼は、 台湾での社会運動へ 一九一五年に一一歳になった その時代と歴史を反映する また在日朝鮮人の活動を 我々は新化の歴史や「大 楊逵は、 一九二四年に台湾を離 しました。 楊逵も反田中義一 衝撃を大きく受け 一九〇五年に 一九二七 の参与及



糖業科の科長である金子昌太郎とそ の著書『甘蔗農学』

では、地元の人を守る役割も果たしましたので、 時最新の農業教材であったと思われます。そして西来庵事件 台湾糖業に関して、 (一九一三年) という本を著しましたが、これはおそらく、 人達らから命の恩人として尊敬されています。 多大な貢献をしてくれました。 彼は、 もちろん、 地元

尽力されます。「新化青年団」という組織をつくりました。 約十冊の彼に関する著作があります。彼は、校長を九年間つとめ、 れていた写真の多くは、この りました。それだけでなく、 地元のコミュニティ 「新化青年団」のイベントのもの

です。

例えば、

そして日本時代の重要なイベントの

は二〇年代のマーケティングの非常にいい例ではないかと思います。「地元の畜産品などの産品」、

「お祭り」を全部集めて紹介するものですが、

中村校長が農業学校の二年生の学生さんと一緒にうつっている写真があります。

「新化郡畜産物産品評会」を紹介したいと思います。これ

が出せるという証拠です。

所となっています。

一つのコミュニティーへの支援を全体的にまとめると、

つまりここは、

経済的な成果、

教育的な成果を展示する場

このくらいい

い成果

地元の役所

初日の参加者は一万四千人にのぼ

その品評会の様子が残されている絵はがきがあります、

ました。

新聞の報道もありました。

くつかの分校もつくりました。農業専門学校なども彼がつく 最後に紹介したいのは、新化公学校の中村亀吉校長です。現在、 づくりにも 残さ

楊逵の作品である

『新聞配達員』では、

主人



写真⑥ 新化中学校にある「みんなでー 緒にはしろう」といったテーマ のアーツ・アブジェト



写真⑤ 2005年に開館した楊逵文学記 念館

化の歴史を忘れないように頑張って 活動を通して台湾を代表する文学家と新 開催することになっています。 毎年三月の楊逵の誕生日にコンサ と文学とその時代が紹介されています。 年地政事務所の建物を再利 (みんなで一緒にはしりましょう) という 三月に楊逵の作品に因んで ○月に「音楽会」を、 ベントを開催するようになりました。 百年記念で我々は「少年時代の楊逵に て使い始めました。そして噍吧哖事件 した。記念館のなかでは、 して大目降文化園区のコア館と 毎年楊逵の誕生日の ったイベントを行 亡くなった日の 「大家來賽跑」 用して開館 これ らの



写真④ 日本時代の武徳殿は、2015年に大目降文化園區のコア館になった

そのあとに七○年代になって、

バラの花』という作品を書い

ています。

台中の方

描いた作品も多い

楊逵は、政治的

『つぶされない

や労働者の意識、

いです。

る伝記型の

ものが多いですが、下級階層

個人的な生活や思

いと関わって

楊逵の

な事件で投獄されますが、

と思ってい

じつは、

々な課題を抱えている

公は日本から帰ってくる船に乗って

○○○年に、我々は新化で楊逵文学寄付して、自分の理想的な文化村をおうとしました。

記念館を作ろうと提案して、二〇〇五二〇〇〇年に、我々は新化で楊逵文学

### コメント

## 小谷 竜介(東北歴史博物館)

それ以上に大きいのは、私は宮城県の沿岸部、海の方をずっとフィールドにして様々な研究を行っ 文化財の保護を行う役所の職員を務めていました。役所の人間であり、博物館の人間という立場、 てきました。今日はそうした立場からコメントをさせていただきます。 私自身、 いまは博物館の学芸員をやっておりますが、震災がおきたときは県の教育庁という、

私にとって大きな課題になっていったわけです。 で震災後は、自分のフィ 東日本大震災の津波は、 ールドだったところとどういうふうに向き合っていくのかというのが、 私のフィールドを全部なくしてしまったということになります。

は危険地域だということで、 がわかっています。 しの悪いような場所だったのですが、 いる状況です。 写真①は、 ○○○人の人口があったんですが、 石巻市の雄勝という非常に被害の大きかった地域の一角で、 ここだけで二〇〇〇人くらいが住んでいたところなので、 人が住むことができなくなった場所です。震災前、 今後は以前の約二割、 震災後はこのようにがらんとなってしまいました。ここ 一五〇〇人ほどに減ってしまうこと まだ瓦礫が結構並んで 家が立ち並び、 雄勝全体では、



写真② 山元町 2011 年 12 月 神社を再建する 周囲には 500 軒ほどの家があった



写真① 石巻市雄勝町 2011 年 6 月 まだ多数の瓦礫がある

りはやっていて、その際は、 できないので、 もっと内陸の方に移っていきました。ただ、神社は動くことが 場所だったのですが、 しまったそうです。 このお社は、 れていたのですが、それも津波で全部流されてしまいました。 すごく風が強いところで、震災前は防風林としてマツが植えら 建てられ こちらの写真②は、 かわいらしい社をプレゼントしてもらいました。ここは、 た社です。 撮影をした数日後には風で飛ばされてなくなって この場所で、 やはりここも、五○○軒くらいの家がある もともとの建物は津波で流されて、 宮城県の一番南、 人が住むことができなくなって、住民は、 内陸から人が集まってきます。 ぽつんと再建する予定です。 山元町の神社 の跡地に

ます。せん。家が建ち並んでいた集落の跡地を御神輿がまわっていき五十軒くらいの家がありましたが、もう人が住むことはできま五十軒といの家がありましたが、もう人が住むことはできまっ。

ものをずっと考えています。いかないといけないわけですが、その一つとして、芸能というこういうなかで、私がこれまで見てきたフィールドを考えて



写真⑤ 気仙沼市浪板 虎舞の再開

に言わ



かと考えました。

写真④ 女川町 2013年9月 避難所で作った座布団製獅子頭

というものが、

たんなる楽しみではなく、

0

と重いものだからではないかというこ

能をやる、

それは、

地域社会にとって芸能

避難所で寝起きをしている状況

のなかで芸

多くの人達が家を無くして、とりあえず

出て

11

たということです。

太鼓を鳴らして、

ダンスをするとい

いう話が

ら二カ月しかたっていない二〇一一

年五月 と笛と

震災か

すでに「芸能をやろう」

芸能に関して一番重要なことは、

神社の祭りの再開 50 軒程の家が建っていた集落の跡地

常をとりもどす第一歩が民俗芸能ではない

があるということであり、

もう一つは

Н

とを思ったわけです。

つは、

芸能には人びとを寄せ集める力

写真③ 南三陸町 2016年4月

芸能をやることで、

震災前の

家も仕事も全部無く

とができる、

そういう力があるのではない

の暮らしを、

まず簡単にとりもどすこ

い い い うことです。 できて したお母さんが、 う話になったそうです。 にきてくれ 何も無くなっ こういうことをすでに四月の段階でつくっ せんが、この獅子頭は、 写真⑤も、 写真④は、 ので獅 か」という意見もあったそうなんですが、 本来の た米軍 子頭をつくって、 多くの人が被災し亡くなった浪板という地区で、 てしまったなか虎舞をやっている様子です。 獅子舞の獅子頭です。 すべて避難所にあったものです。 「ぜひやってくれ」と後押しをしてくれたとい が撤収するときに、 獅子頭は津波で流されて っと見るだけだとよく 五月のことです。 座布団とスリッ 避難所のなかで獅子舞をやってい 台湾の お礼で虎舞をやろうとい 、わから パ ていたとい 「そんなことをやって 方も獅子舞はご存じ しまったのですが、 それ 子どもを亡く 避難所にあっ にビ う話です。 ル 缶 支援 れま で

うのは、 ここでもう一つ れ そこに住 てい たん です んでい おも Ít しろいことがあります。 れど、 る人しかやってはならないというふう その浪板の半分以上は人が住 浪 板 0 虎舞と 13

37

発見するという行為をやりつつ、 後に起こったことの一つだと思っています。 めるという例も見えてきました。 がいるということになるのかなと思っています。 のとして、 の表象でもあります。 んなことをやっていきまし 震災から五年を経た民俗芸能ということですが、 そういうかたちで、 であるがゆえに、 岡先生と私は、 ています。 芸能というものが行われているということが徐々にわかってきました。 一方、浪板のように芸能を続けることによって、 大学と博物館とで共同調査をしていこうということで、 高台移転などにより、 地域のものや文化を通して、 東日本大震災で津波の被害を受けた場所に ょうという活動を試みています の辺りの家が、 地域文化自体がなくなってしまうというなかで、 それが、 伝谷とい しい集落が形成されると、 うのは、 芸能というのは、 地域が変わってくるというのが、



写真⑦ 南三陸町波伝谷 2016年3月 高台移転地と嵩上げ道



写真⑥ 南三陸町波伝谷 2008 年 2 月 ここが全て流された

防波堤を兼ねるような道路をつくっているところです。 に、いまは家が並んでいます(写真®)。これは震災後に土をもって、 いまではこんなふうになっています 全部流れてしまいました。もとは林だった山の上 震災前はこんな感じのところでした(写真 (写真⑦)。

と悩んだりもしています。 いうことをしています。 ユータウンのような家が並ぶ、 ここも家や田圃があったところです。 家の並び順が変ったり そして、 こういうなかで、 ここで行事をやろうと して、 どうしよう 新

財としても見ることができる、 ことは全然考えていない。日常のなかではふつうのものであって、 芸能の発見、 ているから行われているともいえます。 .日になったら獅子舞をやるものだとしか思っていないわけ しかし、 地域 いざやれなくなったときに、 文化の発見と書きましたが、 の人びとは、 芸能がなぜ行われているかという と同時にやはり地域社会とくっつ やらなければいけな 芸能というのは 文化

力が非常にはっきり見えてきたのが、 いということをすごく思ったりする、 そういう意味では、 東日本大震災という災害の 芸能の

やってい

て、もう百年以上前の話なので、

本場のちゃ

んとした虎舞をみたいという話があって、

現地で虎舞を

虎舞の音源

今後はメキシコにも浪板の人

この震災の

13

くと、

地域社会全体を象るも

もちろん娯楽でもあり信仰

地域社会の人びとをつなぎと

まさに、

地域文化を

もう一度いろ

そこでは新たな戸惑いも

お土産にもっていくとなったようです。先ほどの論理からすると、

をもっていきたいと電話がかかってきました。浪板からメキシコに移民した人が、

震災の後、県庁にいたときに、副知事がメキシコを訪問するので、そのお土産に、

人であるという論理に変化したのです。

各所に散り散りバラバラになってしまいました。そうすると、

浪板虎舞ができる人間が浪板の なくなってしまって、住民達は、



写真⑧ 南三陸町 2016年3月 高台移転地の新居

来あったのだけれど、 たオネンブツというものも、 所で研究していますので、政岡先生が発見し この東日本大震災という場ではかなり同じ場 ています。、私は芸能も含めて沿岸地域の研 とは、10年近く同じフィールドで研究をし ントということになるのですが、 うところはもうちょっと考えていかなければ が「危機的」で、「発見の契機」なのかとい すごく感じています。 い意味を波伝谷の人は気が付かなかったけれ いけないと思っています。 最後に簡単ながら発表者の先生方への 政岡先生は別の研究もされていますが、 日常的すぎて、 そして、どういう状況 地域のなかに本 政岡先生 その深 コ

震災で全てがなくなることによって気が

付いたというところもあるのかなと思います。

かで、大切な残さなければならない文化、取り戻していかなければならない文化、 かで見つけていくところになるのかなと思います。 なことをやって再開していくプロセスだとすると、これから新しい地域社会をつくって 一方で最後のところで政岡先生がコメントされていましたけれど、これまでの五年間が、 く文化というものがあるんだと思います。それはどういうものなのか、 新しい そして失わ 地域社会のな いくな ろ

残さない いうの だったのかと思います。 れていくものというのが徐々に出てくるのと同じようなプロセスが、この新化の活動にもきっと て残すのかということを考えていくことがとても重要なことだろうと、 康先生のお話ですが、まさに作家の活動を通して、 はなかなか難しい ていくのだろうな、 のかというのを地域の人達と考えながら、どうしてで残さないのか、 のかなと思うのですが、まさに波伝谷が五年間で残していくも 政岡先生のアプローチとは違いますし、 そういったことでは、 やはり発見をしつつ、 新しい新化という地域をみつけていく活動 危機的というところでは 二つの発表をきいて思い それを残 あるいは、 していくのか Ŏ, どうし 何をと

値を発見する機会になっているということを能にかぎらず、危機的状況が地域の文化の価場だったというふうに思います。さらに、芸

### コメント

# **湖 仕淵**(国立台湾歴史博物館研究員)

た。 と、 も博物館の立場からすると、けっこう変っている所があると思います。 二〇〇一年以前は、新化は知らない町でした。当時、 先ほどの康文榮さんのお話で、歴史的な経緯などいろいろ紹介してくださいましたが、 いろんな仕事をするチャンスがあり、そのときから楊逵文学館のいろんな状況を見てきまし 台湾歴史博物館 の呂理政館長の指示のも

二十年のあいだにこうした地域の資料を集めてきました。すでに集めていたものだけでなく、い ろいろな新しいものもでてきました。 試してくれたおかげで、これからも大きな可能性があると気付かせてくれたわけです。 活動をやっていただいたわけです。ですから博物館だけでなく、、みなさんがいろんな可能性を 自分も含めてボランティアでやってきたイベントです。コンサートや展示会、それに教育劇とか、 いろいろなイベントをやっていただきました。つまり自分の力で、 この六~七年、楊逵文学館の人達といろいろ話をしてきました。康さんのお話に出てきたのは、 博物館レベルでのイベントや 康さんは、

すから、そのおかげで、どういうふうにもっと政府側と話し合ったらいいかというようなことに もなれたわけです。 これらの資料に含まれている歴史は、いろいろと私達の想像力をはたらかせてくれました。で ですので、楊達文学館や公開棟などが発見できたのです。この六~七年のあ

な資料があるのか尋ねて歩いたりする、ほんとうに大変な作業でした。 いだでできたわけではなく、それまでの二十年間に地道に資料を集めたりして、 ひとつ一つどん

降文化園区が設立されたのです。これには康さんが大いに貢献してくれました。 する人達にやっていただいたわけです。ほんとうに、地域の資料がしっかりしているのです。 かりしているから、ここでまた新たな命が生み出されているのです。伝統も守られ、これからど う考えていくかという余裕ももたせてくれました。実は去年になって、 外部からはい ってきた学者が研究するのではなく、現地にいる歴史研究者達や、 もっと広い規模で、 日本史を研究 しっ

ないかなと私は思います。 脅迫されるこののない現代においてどのように模範村になれるかというのが、康さんの働きでは れたため村おこしをしなければならなかったという内容です。ですから、植民地時代の模範村が、 植民地の模範村として、リアルな現象を描写してくれた作品であって、 『模範村』は、新化の地域について、リアルに描写している作品です。三十年代の この地域が日本に圧迫さ

大目降から新化になって、 る歌もあるというのが、楊逵の考え方や精神をいろんな面に反映していると思います。おもしろ いってきて、異なる選択、異なる思考を与えてくれました。 い発想だと思います。私は博物館のなかで働いている者です。この二十年間のルートを見てきて、 また、楊逵の新化にたいする思いとか、歌が大好きで、走ることも好きで、先ほどのような走 いまわれわれの日常生活のなかにはいってきて、また社会のなかには

康さんや来賓のみなさまも、 康さんと同時に考えていると思いますが、 新化というのは、

響力を及ぼしていくかという意味もはいっているだと思います。二十世紀の最後に新化は、 もと存在しているわけです。だから、 ですので、 学を研究する際に是非見ていただきたい地域です。今回のフォーラムが、地域文化の発見と活用 思います。 いろな発展をしてきて、どのように現代に突入するのかというのが、 新化だけでなく、 地域文化の発見をするには、 発見、というのは、新たに発見されて、どういうふうに影 経験論からみますと、 そういうことではない 地域文化はもと いろ かと

アの思想をもって研究するわけです。 てくれます。地域文化に関心をもって研究するときに、 地域文化を発見するときに基本的な戦略や課題はあると思います。これは 確信をもって研究するわけです。 いろいろと考えさせ 何 かコ

私達はどういった目的があるとか、どのようにやるとか、もっと深く考えていかなければならな あるから、そうい いと思います。 府の部門もそうですし、 った地域文化を発見し、 学術の部門もそうですし、 研究するわけです。 自分にしっかりとした核心となる思想が でもこういったプロセスのなかで、

見するというのが一つの大きな課題と私は思います。 で考えるべきではないかと思います。 私達は地域文化を発見するときに、 まず理解して、 まず私達が最初に想像するのは何かということを第一段階 それから発見して、 なかみの意味合いを発

地域文化がその地域だけでなく、 例えば、 いま博物館で私達が一つ考えている課題では、 そのなかに、様々な時代によって、 フィリピンや東南アジアから台 積み重ねているものもあ

場合、この大きな歴史がどういうものかというのが、 歴史があります。 域文化がどのようなものなのかというのも、 です。東南アジアからくる配偶者は特殊なグループですので、こうい 湾にきて、 いうことを想起させてくれました。 日本政府に強制されて村おこししなけ 台湾 の人と結婚するときに、発見された地域文化をどう考えたら 歴史は地方の歴史もあるし、 考えられる課題です。地域文化の もっと大きな流れの国の歴史もあり ればいけないというようなことではないかな、 先ほどの楊逵の模範村の作品 ったグル 13 なかにはか ープが発見した地 のかという問題 ます。 のなかにある 新化の ならず

歴史の材料は異なる観点から、解釈しなければならない。この解釈のものをつかってどういうふ もともに考えるべきではないか。 の記憶のなかに含まれていると思います。地域文化は現在の形態だけでなく、その歴史的な経緯 それで、 べき課題だと思います。 地方のほうに還元するのか、 地域文化が、 現在ではなく昔の政府、 これはやはり地域を主体として考えていくときに、 地域文化を発見するときに、 政権にどう解釈されたか、 もちろん歴史の材料がいります。 というのも地域文化

## セッション2 地域文化を保存する

# 宜蘭県大二結の\*文化資産の取り組み

# 冥鴻(財団法人大二結文化大二結文化基金会理事長)一町の記憶と保存活動

三〇元、 車したわけです。一〇元の差しかないのですが、こうしたことだけでも、地方文化を扱っている 場と路上駐車、どちらのほうが安いですか」とスタッフに尋ねました。すると「駐車場が一時間 たら、他に車が一台もないんです。みんな路上駐車していました。それで、うちの家内が 人達の苦労がわかると思うんです。十元の差だけでも節約しなければならないんです。 私は宜蘭からきた正真正銘の宜蘭人です。大渓にきまして、 路上駐車だったら、 一時間二〇元」ということで、すぐ駐車場から車を出して路上に駐 駐車場を見つけて駐車しようとし 「駐車

あります。 う物語をみなさんにきいていただきたいと思います。 す。そういう意味でも、大二結をこの二○年のあいだにどう保存し、 私達はいろいろな民間の考え方や価値に直面しなければならないし、政府とも交渉する必要が そのあいだに、 私達はサバイバルの道を自分で切り拓いていかなければならないので どう活用しているのかとい

一九九七年、大二結では千人が地元にある王公廟を移動するという、 イベントが行われました。

日常のなかで、 千人以上を動員し廟を保存するイベントでした。当時は、文化資産をどうやって保存するのかと いうアイデアはまだ生まれていなかったと思います。 私達はどういうふうにやっていったのでしょうか。 いろんな文化資産が壊されたりするような

うがいいと考えました。 になるくらいの年齢になりましたが、 しい建物が建てられないという話だったのです。、私はいまでは、そろそろバスに乗っても無料 一九九三年、大二結では王公廟を取り壊そうという計画が立てられました。廟を壊さないと新 当時、 私はまだ若くて、 私達若者は、 古い廟は保存したほ

交流も生まれ、街との距離も縮まってくれると、私達は思いました。 役割を果たしていることから、このコミュニティーの象徴を是非保存したいという思いがあった 私達はずっと地元で暮らしてきて、この王公廟は、人と人とのあいだをしっかりつないでくれる のです。そして、 文化資産とは何か、文化資産は守るべきものだという観念や概念はありませんでした。 コミュニティーの象徴があることにより、 人と人とのあいだの距離が縮まり、

う少しコミュニティが主体となった組織が欲しいと考えるようになりました。 発展協会」を設立しました。しかし、この協会は。政治的な手段として使われる傾向が強く、 まず、保存するための行動を起こさなければなりませんでした。そこで、最初に「コミュニティー

の地域の区長は、「歴史的な資産は保存しなければならない。多数が賛成してくれたらもちろん 保存します。 例えば、 宜蘭には日本時代の文化資産がありました。それを保存しようと思ったのですが、そ でも反対する人が多かったら取り壊します」と語りました。

がはい される議員、それに官僚は、この組織に介入してはいけないという条文があります。 つくった組織の規則には政治排除という条文がはいっているんです。例えば、選挙によって選出 しくなってきます。 このように、保存する、 つまり政治的な力や要素を一切排除した組織をつくろうと思ったのです。ですので、新しく ってくると、 それで私達は、大二結庄を保存するために、コミュニティーを主体とする組 地域の文化活動に障害が生じる懸念があるからです。 あるいはしないという判断に、政治的な要素が絡んでくると、 政治的な力 ややこ

始まりました。保存計画を実行に移すためには、政府による審査が必要で、どうす れるかなど、 りました。 そこから組織は、 行政的な対応能力についても、 いろんなイベントや活動を通じて基礎を固めていきました。 活動のなかでトレーニングしながら、 政府との対話 身につけ れば審査を通 てま

組織がやってきたわ 存するためには一般 けです。 の人間だけでは、その方法がわからないので、 例えば、 **蘭陽博物館** や学会の人達です。 専門家との対話も私達の

もう一つの対話というのが、 それを受けどのような行動をおこすべきかという対話でした。 街との対話です。 この廟が存在する私達の街が、 どういう街です

に支持してもらわなければならないので、 のような主張をみんなにもってもらうかという対話です。これからのイベントについ さらにもう一つの 対話は、 いろんな課題との対話です。 対話が必要なのです。 自分の主張、 自分の観念、 そし て、 住民達 て、

私達が保存したのは、 廟だけではありません。二○年前のかなり保守的な雰囲気のなかでは

が自発的に仕事をしようとするのです」。 とを言います。「発見、そしてサプライズ、感動などを呼び起こすことにより、そこから人びと とによって、 実際の行動も必要です。自分が主張しようとする価値をより広めることも大事です。そうするこ その主張にもとづいて、自分の価値観を語らなければならないのです。 みなさんを説得するは大変でした。それでも、まず私達は自分の主張を出さなければならない 般市民にも私達の価値観を受け入れてもらえる。呂理政館長はよくこの 私達の活動においては、 実際このような効果が出てき もちろんそれだけでなく、 ようなこ

など、子ども達は、 生をするため、小学生は親と一緒にやってきます。「この廟にはどんな神様がまつられているの」 写生のコンクールをやりました。その写生の対象として、王公廟と、 建てずに古い所を守ろうという説得はかなり困難でした。そこでまず、 接的に伝えようとしているのです。 先ほども言ったように、 親にたくさん質問をします。 非常に保守的な地方でしたので、 そのようなイベントのなかで、 古い廟を保存しよう、 お祭りを設定しました。 地元の小学生を集めて、 私達の主張を間 新しいお寺を 写

からないので、 そして二番目は、 作文を書く為には。家に戻って親に質問しなくてはならないです。 のなかの共通の話題になります。 お隣やもっとお年寄りにきくなどすることになります。だから作文活動により おじいちゃんおばあちゃん達にきかなければならないです。 作文です。おそらく子ども達は、 毎日、 この王公にまつわる話をみなさんがきいたりする 王公廟とはそもそも何なのか分からな 若い両親達はおそらくわ それでもわからな コミュニ 13 13 0

のです。 ることの価値をだんだんとみなさんが意識するようになってきました。 また、この廟を保存しようという動きも地域の話題になっていきます。 それで、 保存す

誰が一番ふさわしいか、それは、 催してきました。 していたはずです。 口にこそ出さないけれど、心のなかではご自分の重要性を感じとられたはずです。そして感動 そして、 の廟に対する気持ちや感情を、そのような座談会を通して語ってもらえるようにしたのです。 理委員会の人達なのです。なので私達は座談会を行いました。この廟にまつわる話を語るには そして三つ目。 この座談会のなかでは、この方々が主役になりました。保存に関することについて、 保存することに反対するのは地域の長老です。 四年の時間をかけて、 もちろん、このお年寄りや管理委員会の人達です。この そのような座談会やフォーラム、 お年寄り、 ある セミナーなどを開 13 は、 廟 人達 の管

資産の価値について地元の人達に理解してもらえたのです。 自発的に廟を保存しようという気持ちで動いたのです。このようなイベントを通して、 きました。地元の八〇パー 最終的に一九九七年には、 おそらく、 地域創生とか文化活動とい セント以上の人がイ 千人で廟を移動するイ った言葉の意味はわからない、 ベントに参加 ベントを成功のうちに開催することが その保存の可能性もでてきまし してくれました。 ただし、 そうい 誰もが 、った人 文化

に見てもらうだけでは十分ではありません。 そして、 王公廟の保存は実現しました。 しかし、それを単にそのまま置いておいて標本みた それをやはり生きた文化資産にしてもらい たい

は、 用しようとしていました。 版画の保存・展示、 ので、そこを地元のコミュニティ 文化活動なども実施してきました。ここでは単なる建物ではなくて、 コミュニティ 一の成人式、その他、 ーセンターとして活用する方法を考えました。例えば伝統的 地元にまつわる特別展示を行い、 生きた文化財として運 さらに

地方全体の公共事業にも積極的に参加しようとこころみました。 一九九八年からコミュニティ ーセンターとしての保存活動を行いましたが、 それだけでなく、

れるという話をきくと、私達も阻止しようと思ったのです。そこで、 歩道をつくりました。 んな研究機構と一緒にこの水路に関する環境調査を行いました。 その頃、 二結川の水路が壊されるという話をききました。自分達が生活している環境が変えら 結果、 台湾大学の研究所などいろ 水路を整備し、その上

概念を提供していきました。 二〇年くらい前のことですが、 その頃からは、 人を主体とするコミュニティ ーネット ワー ク 0

るの うという概念を提供しました。一つの計画が、 やはり、 以前は、 意味のないものだと思ったんです。 町のなかは車が走る車道が中心であるという考え方でしたが、 人が歩く道を大事にしようと、地元の人が使用する空間を大事にして保存 ほんとうに人が必要とする使い 方に対応してい 私達が考えて じょ か 13

二番目ですが、地元の植物に関しての保存活動を行いました。

三つ目として、 空間の設計は、 かならず地元の歴史の記憶と連携していかないとい け ないとい

51



写真② 発信地となり、たくさんの見学 者を迎えている



穀倉文化館では地元の米文化の 写真① 昔から大二結にある穀倉は地元 の文化館になった





伝統文化を通しての交流が面白い 写真③ まちづくり団体の来訪も多い

と地元 は行 されました。 ましたので、 迅速に審査をしてくれ 保護するようにお願い 保護のためにそれを登録するにはどう 文化資産保存法に基づい 記者会見など、 けてこの穀倉の歴史的な価値、 った資料が必要か、三週間の時間を なので、 わずに、 県の政府にこれを文化資産とし 必ずその保存活動が阻害されま 0 住民の 成 極秘で行動してきました。 あえて私達は、 功 関係性などを収 公になることをや てこの穀倉が保存 しました。 て、 て、文化資産 申請 記者会見 も通り 集 建物 7

この穀倉でも、 な試みを行 ス を 活用するため ある いまし 11 ただの は に、 地元のラ 地元の 私達は、 空間 だけ イ フ コ ン ス 61 で セ は ろ 夕

の設計としておりこんでいく、 使うとか、 う概念を提起しました。 あるいは台車を利用する習慣があったので、 過去の歴史にはどういうことがあったのか、 むかしは枕木をつかってい 台車を展示するとかという考え方です。 た地域だったので、 歴史に関連するものを空間 そうい った材料を

52

そして四番目に、 のままの、 洗濯するときにつかう階段などを再現 人と水路との生活関係を、 あらためて考えようということもやりました。 してみました。

などが、 ました。 ただし残念ながら、二〇〇六年に内需を拡大するという大きなプロジェ ました。それにより、 国の予算を積極的にもら そこで、 文化資産保存法という法律に基づい かろうじてこの景観がまもられたということです。 おうということで、 むか て、この二結を文化資産として登録 しつくった歩道がこわされ クト が あ ŋ, ようとして 地方議員

な価値は理解してくれるはずです。 登録するなどしてきました。、 情報を伝えてくれたのです。 地元に昔からあ そうい のなかに、 ○九年には、 当時は、 った経験がありまして、 私達もこの穀倉をまもるための動きを展開してきました。 たとえ十 二結王公廟を、 このような穀倉は他にもありまし たお米の 人であっても、 穀倉が壊される、 文化資産の保存 先ほどは、 そして、 二〇〇六年に旧鉄道の空間を歴史的空間として登録 例えば、数年後に実際会った人ですが、 ほんとうに心から感動したという 千人移廟というイベントがあったと紹介しましたが そこで行っているお祭りを、 は戦略的に、 守れないか」 たが、 すぐに壊されたところもあり とまったくの て頭脳を使わないとい 重要な無形文化財として 一般人が、 人が出てくれば文化的 私達の事務所にきて、 そうい けない 0)

で

53



年中行事に登場する食べ物を紹 介する展覧会を開催



そして地元の味と記憶に関す 写真⑥ る展覧会を開催

のかとい 太陽とどういう関係なのか、 と季節との関係はどうなのか、 うな活動もやってきました。 るのか、こういった感じでセミナ くられた料理や食べ物、 漬物はおじいちゃんおばあちゃ 物なので、 こういうような感じでお米を知ってもらうとか、 おばあちゃん達が、 ったことです。 先祖代々伝わってきた知恵を知ってもらうというよ したのです。そうすることによって、 太陽と発酵とのであいだにはどういう作用がある お正月につくられるのか、 たとえば、お団子状の料理とか、 漬物はカビとかにより発酵する食 お米だけではなく、 この漬物というのは、 ーをひらい んがつくることが多い 意味はどうなってい 瓜などの漬物 現地の生活 教育 昔お米でつ 例えば、 したり

と考えています。 のなのか、 地方の意識を高めるというフェスティ これは全て後代に伝えるべき生活の知恵ではな 漬物から得てきた知恵とはどういうも バル があ りまし です

祭りには、地方を結合させていくという役割がありますが

ベントを通じて皆さんの心をもっと結合させていこうと

55

です。 これは一つの建物としてだけでなく、この建物が歴史 た意味をもっているのか、 的な脈略のなかでどういった位置付けにあり、どういっ ルを表現する場所として、ここを利用したのです。 いろんな特別展示などをとおして、地元の文化を、 それを表現しようとしたの

引き出す た一方的な感情の展開を私達はあえてさけようとして てしまいます。そこで、 のですが、 カフェだったり、 展示していきたい思っています。 台湾では一部の有形文化資産は最終的に改装をし この穀倉の経営ですが、 それではこの建物の本来の意味がなくなっ

ショップだったりになっ

てしまった

7

そうい

った過度の商品化、

ま

地元のお母さんたちに集めてもらい、実 作を通して地元料理に隠れている記憶を

54

らい認識しているのか、

毎日お米を食べていますが、

いったい生まれてからいままで、

どのくら

台北一○一の高さほどのお米を食べてきたということです。

て毎日食べて

いるご飯

のことに気付きまし

た。

ご飯を食べて

います

が

お米に関してはどれ

文化の保存に利用してい

くのかを考えました。

私達はどういうふうに現地の知識を構築し、

0)

お米をたべてきたか。

て

います。

もらっていません。

経営の負担になっています。

逆に、

私達は政府に対してレ

ンタル

料をおさめ

政府からの補助金は



われてこんなに大きくなってきたわけです。 自分の両親がこの紙工場で働いていたので、

保存しようと思ったのです。

もとも

東南アジアではもっと

閉鎖することになりました。

ここでは、

モノだけでなく、

現在、

これらを、

るというのが責務ではないかと思っています。というのは

この工場に養

ですから、こ

小さなものだけでなく、こんな大きな工場も保存す

私達はこの施設を保存しようと思いました。私達が保存す

昔あった紙工場の資料を集めて再現する

は中興文化園区があります。ここはもともと紙工場でした

紙の産業が盛んに行われてきました。

いまは文化園区になっています。この中興の紙工場と

らうというような方式です。

大二結は、

るわけではなく、特別展という枠組みでそこへ参加しても

いうようなことでした。イベントというのは毎日やって

13

いうのは

一六~一七年くらい前に、

閉鎖

しました。

そこで

るのは・

写真⑨ 昔話をする

昔の写真を展示して住民たちが集まって

うと思っていたのです。 もともと台北芸術大学に、 「大二結王公をつかって、 の伝承や保存を私達は民間組織でやっています。大二結王公伝統芸術研究所という組織です。 OKというサインを出してくれたんです。 本当は伝統芸術研究所というようなネーミングにしたかったのですが、 芸術研究所という名前にしたらよいですか」と神様に問い合わせてみ 傳統芸術研究所があって、ここにも民間として、芸術研究所をつくろ うしたらイベ つかったり、太鼓を叩いたりというようなことで開所の イベントを行 こうして、研究所も保存するところもできまし ですので、 いました。 研究所を開所するときには、

書類も保存しています。

です。 もにどのように変貌していくか考えようと開催したわ イベントを通じて新たな伝統をつくろう、 ントも必要になってきます。 また時代とと 二〇一三年、 た。そ it

٤, 希望がたくされているわけです。 が実ったわけです。 ろな物語 新たな伝統をつくるということですが、 一つの稲 がは 穂が 11 ってます。 一つの田圃のなかには農民の沢 13 ろんな苦労をかけて、 つまり植物でも田圃でも土地 穀倉のなかにもいろ なぜかという や ・っとお米 Ш 13 0

す。ですので、私達は民間組織ですけれど、 でも、建物でもいろんな歴史がはいっているわけです。いろんな生活経験がはいっているわけで つなげていきたいと考えているからです。以上です。 やはり住民とともに文化資産を保存し、新しい命を

\*台湾では、文化財のことは文化資産だと呼ばれています。 成立しました。 『文化資産保存法』 は \_\_ 九八二年に

## セッション2 地域文化を保存する

# 石川県穴水町の文化遺産を保存する

## -保存修復の視点から

## 日髙 真吾(国立民族学博物館)

します。 私からは「石川県穴水町の文化遺産を保存する―保存修復の視点から」というタイトルで発表

という三つの話題から発表をすすめていきます。 台燈籠」を巡る活動」、三番目に「明泉寺台燈籠の返却に向けた里帰りイベントと現在の活用状況」 今日の内容は、 最初に「災害による地域文化の危機」、二番目に「穴水町指定文化財「明泉寺

## ◎災害による地域文化の危機

化を継承するにあたっての危機とは?」という視点で考えてみました。 最初のテーマである「災害による地域文化の危機」ということについて、まず、 その「地域文

の危機の要素には、都市化による地域文化の埋没、あるいは、災害からの地域再編を契機として、 いくつかの要素が考えられますが、私なりに整理してみると、地域文化を継承するにあたって

地域文化が埋没するということがあると考えます。

劣悪化していく要因になると思います。 つながり、 そして、 その地域で生きる人びとのあいだに、 この危機の要素は、結果として、 地域が自らの地域文化を忘れ、失ってしまうことに 様々な摩擦が生じ、地域の生活環境そのものが

る研 用していけるよう、 この点については、先ほどの政岡先生の発表でも指摘されていたことと重複するかと思います。 そして、 究者でもありますから、 このような事態を引き起こさない一つの手段として、 働きかけていきたいと考えているわけです。 その専門家として、 地域が自らの地域文化の価値について気づき活 私は、 文化財の保存を専門とす

害による地域再編を契機とした、地域文化の埋没」という危機感でした。 このような発想に いたったきっかけは、 二〇一一年の東日本大震災をはじめとする

災

置という活動を中心とした文化財レスキューが実施されました。 文化財の被害に対して、 二〇一一年三月一一日の東北地方太平洋沖地震を起因とした大津波により甚大な被害を受けた災 そこで簡単に東日本大震災につい 地域の文化を伝える文化財の展示施設や収蔵施設も大きな被害を受けました。この 全国規模の支援体制が結成され、被災文化財の救出、 て振り返っておきたいと思います。 東日本大震災は、 一時保管、 応急措 ような

被災地から救援委員会に要請のあったものはすべて、 文化財レスキューの対象は、日本の文化財保護法によって規定された文化財を中心としつつも このように、 レスキューの対象としました。

被災地の要望に応えることを第一に考えた文化財への支援体制というの は、 日本





もどるためには、

私は

八段階の活動があるので

はない

かと考え

できるものだと考えています。

一方で、地域の文化財が被災した場合、

それらが元

の状態に

の文化財レスキュー

の大きな特徴であり、

国際的にも高く評

地域文化財の展示施設・収蔵施設の被害

ます。

ています。

れでは、 のなかでは最初の三段階までの活動ということになり 先ほど紹介した文化財レスキューというの 簡単にこれらの八つの活動内容につい は、 て説明 八段階 ます。 の活 7 13 そ

災害が発生し被害を受けた状況で、 します。 初の 「被災」 は、 まだ活動が行われてい 何も対処されていない状態 ない 段階ですが、

び出 グなどの応急的な処置が行われます。 三番目の した文化財が、 し、安全な場所で一時的に保管するということになります。 の「救出、 「応急措置」では、 一時保管」の活動は、文化財を被災現場から運 さらに悪い状態にならない ホコリや泥で汚れたり、 ためのクリ 壊れた

四番目 0 「整理・記録」では、 救出した文化財の点数を確認

### ⑦ 研究・活用



企画展の開催 (国立民族学博物館)

⑧ 防災



免振台の設置 (中越地震)

⑤ 保存修復



保存修復 (中越沖地震)

⑥ 恒久保管



恒久保管 (中越地震)

を公開する活動にな

ります。

門的な研究活動をと

の過程で行われた専

りまとめ、その成果

あるいは「保存修復」

「整理・記録」、

活用」は、それまで

七番目

0

研研

八番目の「防災」ですが、ここでは支 ですが、ここでは支 得られた教訓を活か し、次の災害に備え るための活動が行わ れます。 これらの活動を経 て、被災した文化財 ③ 応急措置



応急処置作業 (中越沖地震)

④ 整理·記録



整理·記録 (佐用町水害)

① 被災



地震で倒壊した鉄燈籠(能登半島地震)

② 救出 · 一時保管



五番目の「保存修

被災文化財の救出作業 (東日本大震災)

復が必要と判断され復」では本格的な修

た被災文化財に、専

門家が保存修復を行 う作業になります。 六番目は「恒久保 管」です。この活動 は、被災した文化財 を、復旧した博物館 を、復旧した博物館 を、または博物館な どに預けて安全に保

が行われます。体量を把握する作業トを作成し、その全

が、 平常時の状態に戻ったということになると私は考えています。

### ◎穴水町指定文化財 「明泉寺台燈籠」 をめぐる活動

ていきます。 れでは、 次に本題である穴水町指定文化財「明泉寺台燈籠」をめぐる活動について話を進め

などが特産品となっています。 は農林水産業が主な産業であり、 一八八九年から周辺の村同士で合併を繰り返し、 穴水町は、 石川県能登半島にあります。 カキ、 ナマコ、 現 在 X \_ バル、 九五五年に現在の穴水町ができま 0 人口 クロダイなどの水産物、 が約九千人弱とい う町 スイ 0 じた。 規模です。 力、

現在 クリ

辺の この穴水町の集落のひとつである中居という地区は、 地域でさかんに行われてい た製塩業で使う塩釜を製造し、 古来、 大い 鋳物を産業とし、 に発展しました。 江戸時 代には

なくなりました。 かし、 周辺の鋳物の産地が発達するにつれ、 次第に衰退し、 一九二四年には鋳物の生産は

行

財に指定され、 今回の発表の主役となる「明泉寺台燈籠」 現在、 能登中居鋳物館に展示され は、 中居鋳物の傑作として、 ています。 九九五年に町の文化

二五日に発生した地震です。 の計三三九人。 さて、この燈籠が、 住宅は二万九三八二棟の被害がでています。 能登半島地震で被災してしまいました。 人的被害としては、 死者が一人、 重傷者が八八人、 能登半島地震は、 二〇〇七年三月 軽傷者二五〇人



直径約 1.2m の塩釜

能登中居鋳物館



明泉寺台燈籠

三九人、避難者が最大一三七人となり、 被害がでました。 家屋等の全壊を含む損壊が九三〇棟 この なかで穴水町で は、 人が

示されることになりました。 ら燈籠の修理設計や修理費用などが提 修復学会に支援要請が出され、学会か 財の保存修復を目的とする文化財保存 この状況を受け、 "明泉寺台燈籠」 は被災して、 破損していました。 穴水町から、 文化

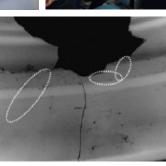
二〇〇七年度に保存修復の予算を計上 支持体の設計、 する国立民族学博物館で修復の指導を この計画 ながら、 制が組まれていきました。 修理設計等を監修した私が、 修復後の復元に使用する をもとに、 製作などを研究支援す 穴水 所属

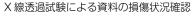












を製作した中居鋳物師の実体を明らかにすること。 穴水町が継続的に管理・活用できるための活動を、 二〇〇八年から二〇一〇年の三年間をかけた研究プロジェクトになりま 支援するための研究活動は、ここに記 を構築していきました。 館で連携して研究活動を展開する体制 存修復で必要な知見を明らかにするこ した三つの内容を柱としております。 二つ この「明泉寺台燈籠」の保存修復を 先ほど紹介した被災文化財の救済活 一つ目は、保存科学調査を行い、保 研究活動を通して企画すること、 目 は、 文献調査を実施し て、 明

というものです。

三つ目は、

これらの研究活動は、

泉寺台燈籠」

被災した明泉寺台燈籠

段階の活動を「明泉寺台燈籠」の保存修復を通 動のうち、文化財レスキュー後の活動となる五 一つ目に行った保存科学調査では、 つまり、 試みようとしたわけです。 保存修復

部分が強度的に弱いのかということを把握して 況を観察して目に見えない亀裂を確認し、 いきました。 八つの活動を行いました。 で必要な知見を明らかにする為の活動として、 まず行ったX線透過試験では、 資料の破損状 どの

の燈籠が三六九キロの重量で、 年に製作され、 その結果、この「明泉寺台燈籠」は、 作年代、構造観察および、重量測定をしました。 であることがわかりました。 次に構造観察を行いましたが、ここでは、 火袋、 四つからなる受竿、 左側の燈籠が三九〇キロ、 宝珠、 台座という構造 签、 一八六四 笠飾 右側













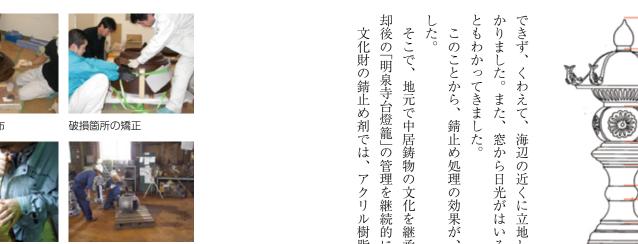
文化財保存修復学会、国立民族学博物

援活動を充実させるために、

穴水町、

いくなかで、保存修復に関する研究支

その後、本格的な作業準備を整えて



技術が、 泉寺台燈籠」は、 組成分析を行いました。 ることが実証され、 また、 とても高か 破片を用いて、 高品質な鋳物製品であ ったことが 当時の中居鋳物師 分析結果から、「明 燈籠本体の鉄 明ら か  $\mathcal{O}$ 0

宝珠

火袋

受竿 受竿

受竿 受竿

台座

館の 能登中居鋳物館では、 泉寺台燈籠」が返却される能登中居鋳物 処理方針を決めるにあたり、 環境調査を行い いました。 緻密な空調管理が 最初に その 結果、

「明泉寺台燈籠」の構造観察

なってきました。

窓から日光がはいることから、 海辺の近くに立地していることから、 紫外線などの影響を受け 錆が発生しやすい環境にあることがわ やすい環境であるこ

長期 間は得ら つれない 可能性が高いことが明らかになり

地元で中居鋳物の文化を継承 7 13 る、 中 居鋳物保存会の方々の力を借りながら、 返

却後の「明泉寺台燈籠」の管理を継続的に実施するため アクリル樹脂がよく使用されます。 の、錆止め剤の選定を行うことにしました。 一方、 日本の大工道具などの錆止

破損箇所の復元 を復元

防錆剤の除去



復元火袋の木型



めとしては、

伝統的に精製した椿油が使用され

7

復元火袋の鋳造

乾性油 錆止め剤の選定実験を行いました。 きましたので、このような不乾性油にも注目して、 が実証できました。 その結果、 でも、 椿油など、 十分に錆止めの効果が得られること 伝統的に使われてきた不

ることにしました。 的安価に購入できる精製オリ そこで私達は、 使用者が安全に使用でき、 1 - ブオイ ル を 使用 比

わせて被災前から失われ 所の矯正および接着復元の作業を中 精製オリーブオイルを用いた錆止め処理、 がら、「明泉寺台燈籠」の保存修復を行いました。 以上のような、 保存修復では、 していきました。 保存科学調査 以前に施された防錆剤 て 13 た右側 の結果を活 心に行 O燈籠 の除去、 破損箇 0) 13 かし 火袋 合

持体の製作も行いました。 さらに保存修復とともに、 「明泉寺台燈籠」 の支

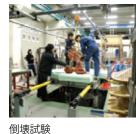
になっていました。また、「明泉寺台燈籠」が何故倒壊したのかということを探るため、 一の大きさの模型を地震発生装置の上に置き、 「明泉寺台燈籠」は、X線透過試験の結果からも、強度が著しく損なわれていることが明らか この燈籠は。 地震の横揺れに弱い構造になっていることが明らかになりました。 どのように倒壊したのかを検証しました。 二分 その結 0

燈籠の内部にこのような支持体を設けて、 各パ ーツにかかる過重負担を軽減する工 をしていきました。 くわえて、 床面



支持体の製作





震にむけた対策をとったわけです。 をのせて展示することで、次なる地

このような保存科学調査に加え

に直接設置できる免震台の上に燈籠

師の実体にせまりました。

文献調査を取り入れ、

中居鋳物

ここでは、

これまでの先行研究を

あらためて検証するとともに、

の子孫の家に伝えられてきた

いました。

床に設置する免震台

古文書の調査を行

有力な鋳物師の家を中心に、 その結果、 中居地区は一四世紀か その

支持体

生産基盤を整えてきたことが明らかになりました。

らかになったわけです。 てきました。その経験を活かして、 佐兵衛のもとで、 また、「明泉寺台燈籠」を製作した吉岡宇衛兵という職人が、 中居の集落にある日吉神社の大型の鉄燈籠の製作に参加していたことがわかっ 「明泉寺台燈籠」 の製作には責任者として携わ 中居の有力な鋳物師である小林 ったことが

の品質が維持できた背景がみえてきました。 このことから、 中居では鋳物師間同士で修業が行われていたことが明らかになって、 中居鋳物

廃業後も中居鋳物の技術は、 集団に市場を奪われる契機となり、 わかりました。 このような交流による技術の平準化というものが、 土などを巧みに扱う左官業として受け継がれていったということも 一九二四年の廃業にいたったこともわかってきました。 技術力の停滞を生み、 他 の鋳

# ◎明泉寺台燈籠返却に向けた里帰りイベントと現在の活用状況

ントと現在の活用状況について紹介していきます 後に、 この三年間の研究プロジェクトを終えた、 「明泉寺台燈籠」 の返却に伴う里帰り

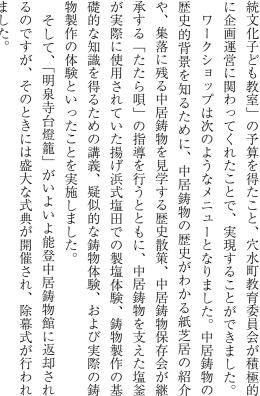
活動をテー 返却するにあたって、「明泉寺台燈籠」のプロジェクトを含む、これまでの被災文化財の支援 この企画展では、 マとした企画展「歴史と文化を救う」を国立民族学博物館で二〇一〇年に開催 地域の歴史や文化の記憶を留めた文化財を救出し、 あるべき姿にもどして しまし



製塩体験



鋳物体験



ました。 わ れれ

た。このときの座談会では かしながら、 に継承してい また、 そして中居鋳物保存会で協力しながらやっ 話題の中心となりました。 穴水町の地域文化の基礎をつくった中居鋳物を、 地元の子どもを対象とした文化継承を、 くのかにつ 11 て、 「能登中居鋳物こども教室」の経験を活 町民のみなさんと座談会を行い ていこうというこ 学校や教育委 どのよう まし



企画展「歴史と文化を救う」開催 国立民族学博物館 2010年7月~9月

0) 次世代に引き継いでいくことが、災害からの復興へと向かう人びと 心の支えになることをしめしました。

について、 一九九五年の阪神・淡路大震災から二〇〇九年にいたるまでの活動 展示内容は、 実際に被災して修復された文化財を展示しながら紹 被災文化財の支援活動が日本で最初に行 わ れ 介 た

ました。 次に、 として、「能登中居鋳物こども教室」とい 「明泉寺台燈籠」を地元に返却するにあた うワ って 1 ク ショプ ッレ プイ

査のために毎月一回、 穴水町で開催しました。 私は「明泉寺台燈籠」のプロジェクトを実施している三年間 穴水町を訪れ、 中居鋳物保存会の方々と 11 ろ

とに整えていきました。 寺台燈籠」 いろな話をする機会をもちました。このときの話のなかで、「明泉 のために、 企画を立案し、その内容は、 いという強い要望があり、 の返却にあたって、 特に地元の子ども達に、 その話をきっかけに、 中居鋳物の歴史的背景や文化的 これまで行ってきた調査結果をも 中居鋳物の文化を理解 ワ クシ 彐 L 継 ツ 7

そしてこの企画は、 文化庁の地域文化支援のための補助事業



鋳物ワークショップ



製塩ワークショップ





のは



ボラマチヤグラの体験

継承していこうと考えてもらわなければならないということです。 発見する機会が必要であり、 ほどの気づきを得ています。 一つは、このような活動は地元の さらに自分達で、 方々が、 自 その地域文化を活用し、 らの地域文化の価値を

見する試みとなった事例とし

ても紹介しました。

この活動を通して三点

単に自分の関心だけで、 できるのではないかと現在考えています。このことは、 てこの機会は、 地域に還元する機会にもなっていく 私達研究者が積極的に関わることで、 その地域の文化を研究するのではなく、 、のでは 私達研究者が、 ない かと考 研究で

ていく一つの手段になるのではないかと考えています。 そして、 このような活動は、 研究者と地域が双方向性 の関係性を築い

きちんと評価するシステムが必要かと思います。 非常に重要ではな 一人でできるわ 地域文化を活用している実践者の活動につい いかと思いま ではなく、 かに周りが応援できるかということ このような活動という ては、 その意義を

そのような支援ということについても、  $\Box$ チできるのではないかと考えています。 研究者の立場から、 積極的

### 返却を記念した式典と座談会



除幕式



座談会

かから、 現在も能登中居鋳物館で行われています。 して先ほど紹介した「能登中居鋳物こども教室」 鋳物体験と製塩体験を中 心としたワー クショ

0)

ツ な

プ

行われています。 都市となった、 て行われるとともに穴水町 梨県南アル からの移住者が多いこと プス市との交流行事として で姉妹

クショップは、

穴水町の小学校の卒業記

念とし

ストラップの小瓶に入れて持ち帰ることができます。 ストラップに 鋳物ワークショ ップで 製塩 ワ は、 - クショ 学校の校章を鋳物で ツ · プでは、 つくっ 0 た塩 < 0 7

世紀から続くボラマチヤグラによる漁業体験も ショップとして行 われています。 現在は新たな試みとし ワ T ク

た「地域文化を保存する」というアプロ 燈籠」の保存修復活動を通して、 二〇〇七年の能登半島地震で被災した 鋳物と いう文化を軸と チの事例を紹 「明泉寺台

また保存を通して行った調査が、 中居鋳物の文化を再

いだで、 参加者の知的好奇心を満足させるような目標を明確に設定し、その目標を達成するための仕掛け づくりを考えなければならないと思っています。この点についても、 ないと考えています。できあがったものを、ただもらえるということを目的とするのではなく、 最後に、ここで紹介したようなワークショップは、ただ楽しむことを目的とすると長続きはし 共同で鍛えあげていくことができるのではないかと考えています。以上で終わります。 研究者と地域の人びとのあ

### コメント

# 許 主冠(台湾城郷特色発展協会理事長)

た。私の考えでは、 林先生が紹介した論に補足的な説明をしたいと思います。 存について、台湾にはどういった問題があるのか、私はもうすこしマクロ的な観点から、先ほど たことが、 いて実践としてやっています。一方台湾は、まだ想像の範疇にとどまっています。 黄先生は、地域文化の保存に関して日本の考え方と台湾の考え方は若干違うとおっしゃいまし 発生したらどうしたらいいのか想像しながら考えているのが現状です。地域文化の保 日本は、地域文化の保存に関しては、災害時にどう保存すればい もしそういっ いのかに 0

りだせばいいのか、そして、三つ目に、これからの文化はどういったかたちで新しい局面をもっ ていくのか、この三つをお話したいと思います。 まず、文化に対する権力の影響についてお話したいと思います。次に権力の流動性をどうつく

込まれていったようなかたちであったかと思います。 などの段階を経てきましたけれど、そういった権力の体系は、 植民されて、あるいは移民がはいってくる時代がありまして、 最初に、権力に関することですが、台湾は外来的な権力によって主導されてきました。 上から下にどちらかというと巻き 一九八五年以降は工業化、 現代化 過去に

そういった環境のなかでは、 自ら反省する、 自ら意識するようなこと、そういったチャンスが

それ に対しては、私達も、ある程度は仕方がないと思っています。 いのです。ですから、 台湾の人達は自らの文化をないがしろにしてきたというのも事実で、

び方は何でもいいのですが、いずれにしても、 いたのです。そして、人びとは、自分の生活への感受性を徐々に失ってきたのです。 長い歴史のなかで、政治的な統治、 あるいは官僚体系の統治、 台湾は外部からの力によってコントロールされ あるいは資本家による統治、呼

どういったところに住んでいるのか、私達の生活はどういったものなのか、そういったことを考 去のフレームを壊すようなことしか想像しませんでした。 えるようになりました。 一九九〇年代から台湾はだんだんと民主化してきました。当時の人びとは民主化に対して、 しかし、徐々に私達はどんな人なのか、

活をおそらく体験したことがないと思います。いまは、 が見られるようになります。 てもコンビニなどお店の明かりが灯っています。そういう光は、 そして、このような従来の構造を打破することで、 ある意味過去の生活とはとても対照的な生活習慣になってきまし 今日ここにいるみなさんは、夜八時以降に人がいなくなるという生 生活、経済、政治など、 夜八時あるいはもっと遅い時間に町に出 私達に温かみをも た。 いろんな面 たらし てくれ で変化

林先生が説明したように、 解釈により価値認定を行ったのです。 上の人で決まります。その価値も上の人が解釈するのです。 宜蘭では、上の人ではなく地元の住民が、自分達が生活する環境のな しか 先ほ

物館もそうです。地方レ ベルの博物館はどうい った価値をもっているのか。 おそらく昔の

る意味、 が思っていた博物館と、 過去の概念を覆すプロセスなのだと思います。 いまの私達が考えている定義は違うと思います。 その定義の変化も、

があります。それでは、文化遺産の価値をきめる資格は、誰にあるのでしょうか。 文化遺産に対する専門家や役所の人の考え方と地元住民の考え方は快々として一致しない

るところなのです。 はまだ模索している段階です。私達は、将来どうあるべきなのか、まだまだその手法を探っ 人達では感じとれない場合が少なくありません。地域文化の解釈、そして保存は、 地元の人なら誰もがもっている大切な生活の記憶や価値は、 地元に住んでいない役所 いま 0 の台湾 人や上 て

場所の価値は誰が定義すればい 私が話したいことの二つ目は、権力の流動性です。 11 のか、そして解釈をした後の責任は誰がとれ この場所は誰 の場所なの 6.7 6.7 のか。

うか。これが、台湾が民主化していくプロセスのなかで考えなければならない問題なのです。 することが必要になってくるのですが、再構成する人は、そのあとの責任も負うべきなのでしょ 民主化というのはやはり再構成が非常に重要です。いままでのものを壊してしまうと、

論されてきましたけれども、 ブメントなのです。住人、あるいはその地方に対して関心をもつ人びとが、自身の経験あるいは 知識体系を有しつつ、 しそれは、単なる地域の文化的資料、歴史的資料を集めるだけではないのです。 それは新たなムー 民主化するプロセスのなかでは、 みんなとともに共同で一つのシステムを構築しようとするのがこの地方学 その地方学というのが最近非常に盛んな観点になっています。ただ 地方が、 例えば大渓なら大渓学ということがさかんにいま討

このような研究は、 けれど、そのような作業のなかでは、一般庶民の生活経験はあまり認められません。そうすると、 ています。 ゼロから模索していかないといけません。これは、私が思うには、権力の流動性の第一歩だと思っ なんです。そういったことは過去に例のないことですから、現在私達がやっていることは、全部 だと思っています。 くなってきます。 昔でしたら、各分野の専門家や学者が、定義をしたり、価値認定をしたりするのです なので、 一般庶民の側からも注視されず、 いまの段階では、地方学というものは、権力の流動性を生み出すもの 記憶から離れてしまい、 共同の記憶ではな

あげて説明したいと思います。大渓のとなりの三峡です。ここは有名な画家李梅樹先生 それでは、今後誰が地域の知識あるいは、 先生が亡くなって記念館が建てられました。私達もそこを訪ねました。 地域に関することを担うべきなのでしょうか、 の故郷で

府からの援助が少ない」、「地元の人が李梅樹先生のことにあんまり関心をもたない」など、 んなクレ 一番印象深かったのは、その博物館のスタッフが文句ばかり言っていたことです。 ームを言っていました。 例えば 11 ろ

自発的にたくさんやるようになったのです。 謝してくれないのか」ということだったのですが、地元の芸術家が李先生を記念するイベントを からすると「李梅樹先生は、三峡に対してたくさんの貢献をしてくれたのに、なぜみんなは、 そして二〇一一年から、このようなクレームばかりの状況が徐々に変わっていきました。

元の芸術家は、 李梅樹先生の作品をプリント して。 店などで展示したりしました。 もちろん

けど、補助金が増えることはありませんでした。 彼等はよろこびました。そして、二〇一四~一六年までの三年間、政府からの補助金は減りまし りました。そして、同じアーティストの仲間が、作品を評価し、 博物館のスタッフは非常によろこんでいました。 イベントは逆にどんどん大きくなりました、政府は、 李梅樹先生の作品が非常に注目されるようにな 毎年申 自ら進んでやってくれることを し訳ない と思ってい たん です

ですが、 ない と楽観的な見方をしています。現在はたしかに、まだまだいろんなことを模索して、 はこれらの作品を通して、地元の歴史や生活の研究を始めました。最初は単なる芸術祭だったの ですけれど、 最終的には、 三峡の炭坑、山、 沢山の可能性が見えてきたと思います。 つの地方の文化発展の契機になっていきました。 自然、社会的な景色を描いていました。ですから、 私は、 どちらかという みなさん

### コメント

## 末森 薫(国立民族学博物館)

### ◎文化財科学の役割

携わるほか、 の研究もすすめています。 私は日髙先生と同じ国立民族学博物館で研究員をしております。ふだんは博物館資料の保存に 国西方の仏教遺跡を対象として、 文化財科学の手法を取り入れた考古学・美術史

担っているかについて、私の考えを少しご紹介させていただきたいと思います。 最初に、私が専門とする文化財科学という分野が、 地域文化の保存においてどのような役割を

料を保存することを主目的とする研究・調査です。もう一つの役割としては、「評価」を目的と 視点から捉える、 調査です。これは、文化財の材質や構造を調べたり、 存」「評価」の両方の役割を合わせることによって、地域文化のもつ価値の新たな発見につながっ した研究・調査というものがあるかと思います。これは、物自体が持つ情報を歴史的、地域的な 私が考える文化財科学の役割を二つあげたいと思います。一つは、「保存」を目的とした研究 あるいは科学的な手法を用いて文字情報などを引き出す研究・調査です。「保 保存修復に用いる材料を検討するなど、資

## てくるのではないかと考えます。

## ◎地域文化の評価に求められる調査

いて、四点ほどポイントをあげさせていただきます。 さまざまな制約の中で保存や評価をおこなうことが求められる「地域文化」の調査に 0

す。そして、正しく情報を解釈するために、再現性のある調査も求められるかと考えます。 ざまな機器をもちいて、 また、現場に携行できる機器を用いた調査も必要になるかと思います。研究施設などでは、 す。人材や予算に限りのある地方では、場所や人を問わずにおこなえる方法が重要になります。 化を継承していく上でも不可欠なものと考えます。もうひとつは、簡便かつ安価で行える調査で 一つは非破壊による調査です。資料への負荷を最小限に抑えて調査をおこなうことは、 精度の高い調査をおこなえますが、現場に持っていけるものは限られま

図です。私が用いているカメラは市販されているもので、比較的安価に手に入れることができま 光学調査では、 の光を用いて、可視光では得られない情報を得ることができます。図1は、光学撮影調査の模式 査方法を簡単に紹介したいと思います。通常われわれが目でみている光は、可視光の領域です。 これらのことを鑑みて、私は光学的な手法を用いた調査に取り組んでいます。ここで、 近赤外線の画像を取得できるように、 可視光よりやや長い波長をもつ近赤外、同じくやや短い波長をもつ近紫外の領域 少しだけ改造してあります。 光学調査では、 近紫外、 その調



チベット(西蔵)版木(国立民族学博物館所蔵)



光源:白色(可視光)偏光

受光:反射光

加工:グレースケール、画像反転、

レベル補正

図2 チベット版木1 光学撮影調査事例



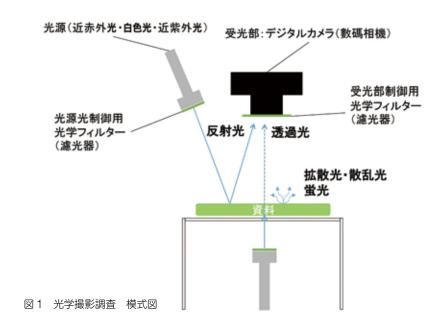
チベット (西蔵) 版木 (国立民族学博物館所蔵)



光源:白色(可視光) 受光:拡散光(反射光除去)

加工:無

図3 チベット版木2 光学撮影調査事例



象に行 そのままでは読めない 作されたものです す。版木は紙に刷ることを目的 学博物館が所蔵するチベ 介したいと思います。 いる文字を読むために紙に刷 0 た光学調査の事例をい 地域文化を包含する資料 りましたが、 ある研究者の方より ので、 図 2 は、 彫られ あるい 刷り ンクを塗布 直しをおこ は読みに として制 た文字は 国立民族 版木で 彫られ つか紹 を対

白色光(可視光)、近赤外の各光源を照射し、資料表面で反射した光、資料表面で反射した光、資料を透過した光などを受光します。撮影方法や条件を変えることで、資料から異なるや条件を変えることができます。

銅版製絵馬(大阪府吹田市春日地蔵講蔵)



光源:紫外線(極大波長:375nm)

受光:紫外線蛍光

加工:グレースケール化、レベル補正

図 4 銅板製絵馬 光学撮影調査事例



屏風包紙文書(新潟県十日町市 縮問屋加賀屋蕪木家蔵)



光源:赤外線(極大波長:850nm)

受光:赤外線透過光

加工:グレースケール化、レベル補正

図 5 屏風包紙文書 光学撮影調査事例

# ◎地域文化の保存と人びとの関心

透

た光を撮影する方法を用

るて

ことによっ

文字

· が 重

ね

て記

され

るなど、

な

文字がます

これらの事例では、

光学調査を通して、

版木や絵馬、

包紙文書がもつ価値の再発見、

文字が読めるようになり

、ました。

再評価に

がったと言えます。

のなを

は、

歴史を

重な情報

が

記され

7

が

また、図 外光によ

語る

十日

町で発見

たところ

も同じく版木です。

下の画像は、資料表面の反射光を除去し、

文字が書かれている部分にだけに墨あるい

ものです。

方法を用いてする必要があ

て資料

.. (7)

凹凸の差を画像として取得し、

文字を読めるように

加工を行いました。

図

3

反射光を撮影する

拡散光を受光する方法で撮影した

ができました。

て

11

た痕跡

ŋ

資料自体の損傷につながることが懸念されました。そこで、

を確認することができ、

資料がどのように使われ

たかを知ることが

れ

たので、

絵の内

容が見えな

つ

る箇所があ

0)

外光置

つ

て励起し

た蛍光を撮影

容が見え

大阪

0)

にある

飾

た絵馬です。

部

0)

お二方のご発表では、 最後に、お二方のご発表に対してコメントをさせていただきたいと思います。 地域文化を保存するうえでの課題として、 災害やで都市化があげられ

7

87

芽生え、 なってきます。地域文化に対する人びとの関心を向上させるためには、 のではないかと考えています。地域文化の保存をすすめていくには、地域の人びとの力が必要に ました。それらにくわえ、地域文化を保存する上では、 二方のご発表はそのサイクルが非常にうまく継続的に連鎖しているように感じました。 再評価や再発見が重要になります。 それが地域文化の保存や継承活動につながっていくのではないかと考えます。 再評価や再発見を通して地域文化財に対する人びとの関心が 人びとの「無関心」が一つの脅威になる 地域文化財のもつ価値の 今回、 お

域の 物時代が地域コミュニティの場になり、建物の価値が新たに付加され、 物自体の存在価値を見直そうという活動が開始され、 林先生のご発表では、はじめに都市化によって古い建物が壊されてしまうという危機から、 活用・評価のサイクル 現在では、ボランティアの数もどんどん増え、新たな価値を創造する研究所もつくられ、 人々によって建物の保存が行われていきました。 が連鎖していることが確認できます。 それによって人びとの関心が生まれて、 さらに建物が保存されることによって、 人びとの関心を呼びまし 建 地 建

して、 文献調査を通して、 をおこなうための材料調査にて、 そうとする機運が地域の人々に生まれ、結果として、 日 髙先生がご発表されました穴水では、災害により燈籠が着目され、 さらに人びとの関心が惹き、 ここでも保存 灯篭が非常に重要な価値を有することが判明しました。そして、再評価を通 活用・評価のサイクルが継続しており、 灯篭が非常に高品質な鋳物であることが分かり、 展示や子ども教室、 保存修復に繋がりました。また、保存修復 ワークショップなどの活用に転じていき 地域文化財の保存が継続して続 地域 の貴重な文化財を残 また、 再度の

けられていました。

地域文化を保存する上でのひとつのモデルケースとなるような事例ではないかと考えます。 お二方にご発表いただいた内容は、 保存・ 活用・評価のサイクルが継続的に実施されており、

## セッション3 地域文化を活用する

# 地域資料展示と大学との協同作業の可能性 京都市登録有形民俗文化財

# 「久多の山村生活用具」の展示を通じて

伊達 仁美(京都造形芸術大学)

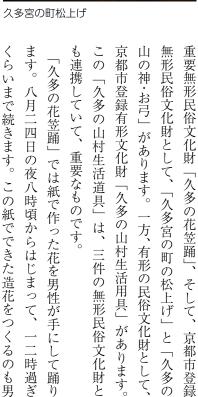
田や畑ということになっているのですが、 非常に栄えていたところでした。 して、平安時代から室町時代にかけての一〇〇〇~一三〇〇年前後までは、「山の荘園」として 京都市左京区は、 とても繁栄しました。 中世には「久多荘」とよばれ、 南北に長い区であり、 荘園は、 その中で久多は最北端に位置しています。 木材が貴重な材であった当時、 京都と若狭とを街道でつなぐ、 貴族や寺院・神社などの私的な領地で、 久多は「山の荘園」と 交通の要所でした。 その多くは、

### ◎久多の民俗文化財

久多の民俗文化財についてですが、 無形、 有形ともにあります。 無形では、 国の指定



久多の花笠踊



ることもできないということを守っています。ている空間には女性は一切入れない、そしてこの花に触れ性、演じるのも男性ということで、現在も、これをつくっ性、演じるのも男性ということで、現在も、これをつくっます。八月二四日の夜八時頃からはじまって、一二時過ぎ「久多の花笠踊」では紙で作った花を男性が手にして踊り

て入れる、一番に入れた人が、一番松という名誉を得ます。「玉入れ」と同じように、火のついたたいまつをほうり投げ事です。「とろぎ」という大松明ですが、ここに各自がつくり、事です。「とろぎ」という大松明ですが、ここに各自がつくり、次に「久多宮の町の松上げ」です。久多には五つの地区



観ます。

そして次が

「久多の山

の神

・お弓」という行事です。

当

って一年ずつ交代で神主になった方が矢を射っ

その年の豊作もしくは吉凶を占うと

その三階部分を、

また、一・

です。

展示室は、

空間は男性だけのものです。

女性は少し離れたところから

松上げをしている

これも「久多の花笠踊」と同じ様に、

火が入ると、きれいに燃えて、あとは倒すという行事です。



久多の山村生活用具

久多の山の神・お弓

二階は、高齢者の福祉施設にもなっています。 この「久多の山村生活用具」の収蔵庫にしています。 廃校になった中学校を利用しています。 番神主とい て当たったところで、 <u>ئ</u>ر そして最後が、「久多の山村生活用具」 毎年一月二日に行われる行事です。

の家の女の人が織 この辺りでは、 五六三点は、 くらいまでの長い 京都市登録有形民俗文化財「久多の山村生活用具」 それから林業に関する道具などからなります。 この地域で日常的に使用されてきた、 和四十年代、 あいだ、 ってつくられていました。 家族が着る麻や綿の着物は、 西暦でいうと一九六〇年代 さらには、 衣食住、

な産業は林業で最近までさかんに行われていました。

## ◎京都造形芸術大学の活動

示などを通じて、 久多の山村生活用具の変遷についてですが、 京都造形芸術大学では、「民俗文化財を活かした地域活性化に取り組むため、 住民および広く市民に認知していただく」ことを活動の目的 登録文化財になったのは、 いまから三〇年程前 としています。 調査・ 記録 0

郷土文化伝習館」というところで約百点の民具が展示されました。その久多民具伝習館が閉館 ことです。 れることを機に、 ぞれのお宅で収蔵されていました。また、 それらを次の世代に伝えるため、 新たな保存や活動につなげるべく今回の資料の再構築を行いました。 資料の再構築することにしました。当時は約二〇軒 地元の方により、 小規模の展示場である、 「久多

多の有形文化財ということで講演しました。 演会を催しました。民俗芸能の研究者である山路興造先生が久多の無形文化財、 多の山村生活用具其の二」という展示をいたしました。 具」という展示をしました。 示解説を行い、 活動の結果を公開するため、 来場者達からも情報を得るという活動をしました。そして二年目の展示では、 そして二〇一五年度には、 二〇一四年には「民具が語る山と里の暮らし~久多の山村生活用 一年目の展示では、それぞれ学生達が展 「写真にみる久多の民具と伝統文化~久 そして、

はなかったので、 展示場は、かつては中学校だったところです。 教室は四つしかありませんでした。三階建てで、 久多は、もともとそんなに人口の多いところで 一、二階が職員室など、







残っているのですが、

まだ教室のあとが

一、二階は、現在

きいきセンター」

三階が教室ということ

設になっています。で という高齢者の福祉施

すから一階が、

おじい

ちゃん、

おばあちゃん



屋になっていて、

二階

話会をしたりという部 体操教室をしたり、 達が週に何回か来て、



事会ができるような舞 きにカラオケ大会や食 は皆さんが集まったと

部屋もあります。 台になっていて、

二階が、そうい ということだったので、ここに民具を集めて収蔵展示をすることにしました。 て下さったお一人お一人からお話を聞きました。 年目に公開したときに、これらの道具を使ったことがある人達の話を伺うということで、 った高齢者のための部屋なのですが、三階は何もなされておらず 「空いているよ」

できたことは、 に沢山の情報を得ることができません。その結果この展覧会に来て下さった地元の方々とお話が るときにも、 そうするといままでわからなかったモノの情報が、 聞き取り調査をしながら集めてはいますが、限られた時間で収集するため、 資料に情報を付加することにとても役立ちました。 とてもよくわかってきました。私達は集め そん

写真展では、花笠を飾りました。 それぞれの町内で特徴のある花をつくっています。

さんに語り合っていただくということもいたしました。 展示する写真は久多を物語る写真ということで、 学生達が選びました。 写真をみながら、 み

のがこんどありますよ」ということを、 にて開催いたしました。それから一一月一九、二〇日に、 で開催しました。 - 二八日の約二週間にわたり、写真展「久多の山村生活用具其の三」を左京区役所の一階ロビー 二〇一六年度は二回展示をいたしました。二〇一六年度のプレ展示ということで、 これが「写真にみる久多の暮らしと文化」で、 みなさんにお知らせするための展示ということになり 同じ写真展を「久多いきいきセンター プレ展示ですから「こういうも 〇月一四

会場の区役所ロビー は、 年中無休で開いています。 朝の八時から夜の九時まで。 土曜 日曜も

入れる桶一点、それと麻の繊維だけを施錠できる展示ケースに入れて、 私達がいないところで実物展示をするのは防犯も含めて危険なので、 展示 麻の糸をつくったときに しました。

ことでここにどんどん入れておこうというのではないわけです。 に見える道具にしかならないわけです。ですからこれを京都市の登録有形文化財とし というのか」「いつ使われたのか」「どこで使われたのか」「誰が使ったのか」「何の のでもいつどこで誰がという情報があるのが民俗資料の価値です。 化財として後世に伝えてい のか」そして「使い方はどうなの のを集めて、それを活用していくためには、 次に、活用に必要な資料化についてです。 情報が必要ということです。 くためには、 か」など、 民俗資料の必須情報ということで、5W このような情報が必要なわけです。 これがなければ、 ただ古いものを集めるだけではありません。 やはり資料化をしないとい ただの古い道具、 ですから活用にはモノだけで けないわけです。 ただ古いからとい Ĭ H b しくは古そう ために使った 「名前はなん て、 民俗文 同じも 古 13

使わなくなった古い道具を入 こも指定を受けてから三〇年くらいたっているのですが、指定をうけた文化財としての意味がわ からなくなってしまい 去年調査を行った事例ですが、 古い社員さん達が ったいどれが文化財で、 所有者としても困られていました。そこで、資料の調査とともにデー 八れこん 「これも古そうやからあそこに入れておこう」といって、 京都市の有形文化財になっている酒造りの道具があり どれが文化財ではないただの古い道具なのかということがわ で、最初は文化財の収蔵庫になっていたところが、三〇年たっ どんどん ます。 夕







昔の道具の聞き取り調査 左京区久多

情報の付加が必要であるという事です。
民俗文化財というのは同じようなものが
ベースをつくるということをしました。

生まれた」とか、 集まられるときに学生が行って話を聞きま という活動をしました。 動をしました。 て集めた情報を道具に付けていくという活 皆さんどの方も笑顔になるんです。そうやっ どうだった」とか、話がどんどんはずんで、 だった」とか、 くるわけです。 達からすると何もわからないものなので、 いろんなことを教えて下さいます。 また学生達と「昔の道具の聞き取り調査 先方にとって当たり前の道具が、 一点の資料 「これを使ったときに長男が これは、 「これを使ったときにどう からどんどんと情報が出て 「自分がお嫁にきたときに おばあちゃん達が 教育的にも、 と同時 学生

達のコミュニケーション能力や、探究力、発見、発展させる力が向上するということにもつなが ていきました。

## ◎学校や地域における活用事例

れだけ地域をものがたる資料が収蔵されているかということを調査しました。 徴です。 を占める山間部 左京区の事例になりますが、 学校や地域における活用事例をご紹介します。大学が左京区にありますので、 左京区には京都市立の小学校が二二校(調査当時)あります。この二二校のなか があり、 中央あたりに住宅地があり、 先ほどお話した通り左京区は南北に長い地域で、北には、 南のほうには商業地が広がるというのが特 半分以上 こちらも

とです。 教えるとき、 学びます。 ねたときに、 的に集めたものではないので、 ている民俗資料 調査の目的は、 ります。 学校のなかには、その授業のために、 まずは身近な昔のくらしからはいっていくわけですが、 すぐに答えてくれるおじいちゃん、 日本の教育では というの 左京区の場合、 日本の小学校教育では、三年生もしくは四年生で は、 狭い校区で使用されたものであり、 いまから五〇年 二二校のうち一八校に道具が保存されていました。 地域性がより顕著にでます。 -〜六〇年前をさします。 「昔のくらし」で使った道具を保存しているとこ おばあちゃんがまわりにたくさんいるというこ 博物館の学芸員や研究者が恣意 小学生に 「昔のくらし」 「昔のくらし」に 一世 とい 小学校に残っ ということを う概念を りい て尋

本では数年前に大きな市町村合併があり、 その結果地域の博物館施設が減少しました。 京

資私小たか域すら都校と京学のをり都

とお 私達が最初に調査をしたときには、 た事例を紹介します。 域の皆さんも活用できるのではない らしの道具がのこっているわけです。 校では山 京区 学区 りません。そこで、学校で民俗資料 都市には公立の歴史民俗資料館があ かと考え、 することで、授業だけではなく、 都会部分である南の方では、町の暮 を保存することが重要となり、 の特徴が資料にあらわれるわけです。 これらの調査から、 ŋ 0) が雑多にモノがおかれていまし の特徴とい 0) 地図をし の道具、 南北に長く、 「明徳小さな博物館」です。 モデルケースとして、行っ  $\otimes$ 13 ますと、先ほど左 して説明しまし 住宅地では農具、 展示に工夫を 京都市立明徳 山間部の小学 た

0



クリーニング





公開日当日には多くの地域 の方が訪れた。

域としてい 示デザインを学ぶ学生が中心となって取り組むことにしました。 私どもの大学は芸術大学で、 いますが、、 そういう保存修復を学ぶ学生と、 いろんな学科があります。私は民俗文化財の保存修復を専門領 空間演出デザインという、

のため、 から、 校の先生に尋ねたところ、 地域では、 は授業で活用することです。 板の間には、 授業のときには見せることができるようにしておいてください。」ということでした。 木のふたをして、 あ りません。 囲炉裏がありました。 岩倉では囲炉裏ではなく竈を使います。 展示をしました。 「囲炉裏は教科書に出てくるので、 それで、「囲炉裏は完全にふたをして塞いでもい しかし、 囲炉裏は、 明徳小学校の校区である左京区岩倉 そのときにはみせないと 小学校の展示では、 いですか」 第一 けない と小学 の 目 的

利用して民俗資料室に 空き教室の利用には少し条件があります。 時的に利用したものです。 けません。 だから大きな改装はできないわけです。 したところが多いようです。 ですから、 生徒が増えて ただ、 少子化の影響で、 あくまでもこれは少子化によ いくと、 空き教室ができ、 また元のように教室に戻 それ いって余っ らを

もご協力いただきまし 保存修復を勉強している学生は資料の そして公開日当日には、 インを学ぶ学生は、 学生たちも大工さんの指導の下、 展示の 小学校の卒業生である大工さんは、 地域の方、  $\nu$ 1 アウトを行 約二百名が来館 クリ 木材の塗装などを行っていました。 いました。 ーニングや、 そして私たちの活動には地元の皆さん 棚や格子戸などを作って下さい ま

錆び止めなど資料保存を、 実際に使用したことがある年代の方 博物館での展 空間演出 デ

解説されていました。以上、地域の資料を保存するため、学生たちが学んでいることを生かす取 は、資料を手に取って思い出話を語り合い、若い世代や小学生に対しては、道具の使い方などを り組みとその事例を紹介しました。

### セッション3 地域文化を活用する―2

# 博物館のあり方としての「共学\_ 大渓の地域参加型博物館を例とし

**倩慧**(桃園市立大溪木芸生態博物館館長)

クトについてご紹介したいと思います。 大渓の博物館の運営手法、それに準備段階から現在推進しているものまで、さまざまなプロジェ

常に重要な川、大漢渓がえがかれています。 博物館が正式に開館した際に手書きの絵が公開されました。その絵のなかには大渓にとって非

ました。大渓は小さい町ですが、たくさんの文化資産があります。百年ほどの歴史があり、有形、 流域の一番内陸に位置している町で、絵では、その特徴をできるだけ表現しようと努力しました。 されていきました。また新竹地方への川沿いの重要なルートのひとつとなっていました。大渓は きました。一方、大渓からは、こちらで栽培したお茶や樟脳、炭、木工芸品などが川を下り輸出 無形ともにたくさんの文化資産を蓄積してきました。 大渓は、この大漢渓の東岸に位置する町です。昔から、海のいろんな恵みが川を上ってやって 開館以来、地元の方々は絵を大変気に入ってくれて、 有形文化資産においては、三十箇所くらい 地元関連の展示を続けてやることができ

の歴史建造物があり、そのなかには、 お祭りも指定されています。 国指定の有形文化資産もあります。 また無形文化資産とし

は六人の職人が国に認定されています。 私達博物館にとっては、木工の保存は、 くらいありますが、 無形文化資産のなかでも、 博物館が開館するに際して、もう一度調査をしました。 以前は、もっとたくさんありました。 伝統工芸の木工が有名で、 重要な課題となっています。 一九九九年と二〇〇七年にいろんな調査をしてきました 木彫産業もとても重要です。 徐々に減ってきたということですが、 現在、木工に関する会社は一五〇社 いま大渓で

するということを盛んに行ってきました。 また大渓は、大二結と同じように、二十年くらい前から、 地元の住民が文化資産の保存に参加

ミュニティ 平通は日本統治時代からの街ですが、そして中 ーだといえるでしょう。 地元の女性、 あるいは子ども向け 0 イベントも沢山計画されてい 山通、 中央通など三つの古い街並みが残され て、 とても活発なコ

ほんとうに地元の人が望んでいる風景でしょうか。 休日になると数多くの観光客であふれています。 市民のみなさんがもう一度考え直す時期がき ただし、このように観光客があふれる景色は、

になりました。 かったのです。 二〇一二年、 警察官とその家族が住んでいたところです。 おそらく一九〇一年から四一年までの 日本統治時代の警察官舎を歴 史的建築とし 四〇年間使われた官舎で、 て登録するかしない もちろん老朽化して、 かというのが課題 私達は保存した 取り壊して新



写真① コア館となったのは、日本時代に作った警察の官舎。これは修理前の様子

の生活文化、

コミュニティ

の発展を博物館の運営理念にとり

なかに佇んでいます。 造物に関しては、 でてきました。大渓では古い街並みを守って現在活動を二〇年間やっ えてきました。そして、この官舎を保存するだけではなく、どのように活用するかという課題が いろんな古い街並みを見たりするだけになってしまっていたのです。 現代的な建築物をたてようという計画もあります。 一時期議論されました。こういったディスカッションを経ることで、 私達は博物館をつくり あまり関心がもたれませんでした。大渓にきたら、 たいのです。大渓には、昔からあった生活文化が古い しい建物をつくるか、 てきましたが、 美味しいものを食べたり、 いろんな課題がみ 別の手法で運用 この間、 ・街並み

大渓のビッグエリアになっ そして、 大渓だけではなく、 てい 無形文化遺産とか、 発したほうがいいのではない 全部のエリアを含まなければならないと私達は考えたのです。 のエリアを含まなければ したがって博物館ではなく、 くのです。ですから博物館は大渓だけではなく、 復興区 もちろん有形も含まれますが、 |や三峡区 ならない。つまりこの端から三峡まで、 かと考えました。 生態博物館というところから出 の方にもっと広がってい 自然景観とか、 ここの住民 この生態

いうのは、いろんな地域に関する物語です。物語というのは、二〇一三年に、まず大渓の宝箱を製作しました。この宝箱といれなければならないと考えました。



存方法を討論する

になっているのです。

それから、

ろんな地元にある審美的なコンテンツがそのな

博物館のホストは館長ではなく、

住

民

かにはい

っています。

古い店などについては、

公共空間として市立博物館の一部に

例えば、

民家や、

地域の知識、

生活の記憶、

なってもらうという考え方でした。

致しました。私達が得たコンセンサスは、

であれば、

住民参加型にしなくてはならな

11

ということで一



写真② 修理後は常設展の場所として使われ ている

ジを考えてもらったのです。

この二、三年の討論を経ることによって、

博物館をつくる

四連棟と呼ばれる宿舎群、

トです。

それまで二〇年間やってきた文化の保存ではなく、

これ のイ

b

二〇年をどのように活動していくのか考えるため

達の次のステップとして、どうしていきたいのかというイ

ですから、多くのみなさんに集まってもら

住民 ベン か

メ

プロジェクト 一五年、桃園の 0 なかで、 が始動したわけです。 っても、 古い建物を修繕し、 文化局のもとに、 しい建物が 建 0 「街角館」 博物館 たわ it にな では とよば 0 な n

しました。 歴史的な建造物は日本式のも てもら

ことからスター

うことだと思っています。 地元住民はどういったかたちで参加すればい 設展の空間として開放されています。 大渓の歴史や人びとの生活文化を日本の建物の中で展示するには工夫が必要であることに気付 「街角館」を推進する時、 地元の人びとのスト 住民が自ら自分達 一番肝心なのは、 リリ をどう展示するか、 の生活、 いのかなど、 博物館とのパ 昔に関する話を語ることを主軸にお 多くの課題がありました。 あるいは別の建物で語ってもらうか トナ シップをどうつくる いてい かと

ら校長先生の宿舎を壱号館にしたのです。

今年の一〇月二一日に、

第二期として三つの建物もオー

プンしました。

いまでは、

八

カ所が

常

態博物館を運営していくには、

やはり住民とともにやっていくべきだと考えています。

日本式の建物で、

二〇坪くら

の広さです。

ですか

もともとは大渓小学校の校長先生の宿舎でした。

機能で使われているのかという認識を深めてもらうことができます。

博物館に入場してもらうことで、

のです

それらを修繕するのはかなり難しい作業になりました。

大渓という地域を認識してもらって、

それと同時にどうい

う

もともと家屋は人が住んでいるだけでなく、

それで、三月二八日、正式に博物館が開館しました。まず公開されたのは、「壱号館」です。

公共の空間として使われているものも少なくあ

ません。

シップで運営され、 生活文化などを教えてくれ 地元の方々に対して博物館 街角館の所有

がもっている知識を提供する博物館に対して地元の方々が昔のこと、

自分や家族がもつものを整理してみてもらいました。

お互いが交流する、

大渓では、

このようなパ

ナ

そして、

学」といいます。 者が博物館と一緒に運営方法・管理方法を模索していきます。 このようなことをわれ わ れ は 一共

意欲をもっているということです。 そしてストーリーや空間の整理、 空間を所有していること、そしてその空間を利用して、自分の物語 角館の各館長は、 角館 は、地元を紹介する情熱をもっている人でないとできません。 もともと使命感の強い方々です。そしてその使命感や責任感がますます強 博物館からは また教育活動の企画にも、私達はサポートしています。 少ないですが、 街角館に補助金を提供していま そして、 一を沢山 の人とシェアする 第二の 条件 とし

くなってきました。街角館と博物館は全く違うものです。街角館では、それぞれ自分の生活や生 自分達が所有する既存の文化、生活を気付かせる、それらを表現する方法を自ら模索して実現 生活を表現する一つの方法として自然にそこに生きた歴史を展示しています。

していくということです。 の企画と街角館での企画とを連携させることも可能としています。 したがって、とても個人的な表現手法に なっています。 また各展示に

アーカイ 蔵品ですが、 かるようになっています。 ブを通して、これがいま博物館にあるのか、 博物館がもつも のと街角館がもつものとの二つの部分にわけています。 地元の街角館におい てある のか一目瞭然 デジ 夕

軒あります。 の種類は、 は最初四軒 そしてもうすこし山奥にはいったところにも三軒あります 最初に木工品を扱うところがほとんどだったのですが、 でしたが、 いまは一六軒になりました。古い通 りだけで 徐 々に範囲も広が Ш の西側にも

が三十くらいあ 資産として登録しています。このような文化には、百年ほ 神輿とか巡回など、 せてきました。 スマンによる団体もあります。そういった異なる人達による団体も関羽の誕生日 動を考えてくれるようになりました。さらに獅子舞の団体です。それも街角館の一つです。地元 の流出も一つの問題です。 そして、 人が関羽の誕生日を祝うために自発的に組んだ獅子舞の団体があ 地元の古い旅館や楽器屋、そして工具を扱う工房も街角館の一つになっています。 いままであまり使われていなかったコミュニティーセンターを、若い人が りました。 一緒にお祭りを盛り上げようとしていて、 いま、 こうしたお祭り 参加する若い人が少なくなっているのが問題です。 が続けていけるかどうかも、 どの歴史があ 二〇一一年には桃園市が無形文化 りました。その他に、ビジネ り、参加する個人や組織 私達博物館も のときには、お 関連するも いろんな活 関心をよ

らもっている資源を整理するように促しています。 ましたが、 してきました。 私達はいくつかの手法により、地 やはり地元住民の参加が重要です。 私達は調査研究あるいは映像記録などを、 元 の人びととともに、 私達も補助金を提供することによって、組織 この祭りをふたたび元気にさせようと いろんなアプローチにより実施してき が自

使っていた道具を、そして、自分達が過去にどんなことをやってきたのか、そのストー 失ってきたかを意識するようになりました。 てもらう、 住民のみなさんは文化の重要性、そして過去、自分達がどんなに重要で特色ある文化を そして若い 人に参加を促すような試みもしました。 百年の特別展示、これは二〇一六年七月からですが、 毎年の発表目標も自分達で探して IJ を語っ



職人の子孫達も、

自分の先祖代

々

八〇歳以上の職 現状を調査する

て行

います。

お祭りの前には、

教育推進

認識

ベントをやって、お祭りのなかみをより深

承する

助となればと考えています。 していく役割です。そして、

このよう

文化を伝

博物館はどちらかというと、

傍らで

はまだ生きています。

お祭りは続け

街角館を紹介する特別展を開催する

人が少なくなっているという状況がわかりました。その研究成果を先ほど紹介した官舎で展示し 写真④ ことから始めました。すると、 げることも私達の重要な役割だと考えました。 も重要です。 活にふさわ なってきました。この お店がありますが、こちらもだんだんと少なく に亡くなり、 そこでまず、 しいものにしてい まだ二〇~二五軒くらい 地元住民とともに木工芸を盛り上 木工芸の職人の 木工品をい

もう一つ重要なのは木工芸です。職人が徐 してもらえるようにこころみました。

くのかという転換

かに現在の生

木工品

 $\mathcal{O}$ 

いまも木製品をつくり続けている方もいます。 を語ってくれていることになるわけです。 は一般の方にも体験してもらう。 寺のなかで使っている神輿をどのように作ってきたの も知ってもらう。 そのなかには、百人の弟子をもつような有 るけれど、 この人は普通のおじさんのように見え さらには神輿の作り

方だけで

か、

特に、

年をとった職人が語る

ストーリー

は、

そして、

職人の物語館

7

ij

うな雰囲気を作り出したいのです。 ん技術も継承してもらわなければなりませ 工芸に多大な貢献をした人なんだと していくにはどうしたらよ 若者達を養成 じつは沢 山の後継者がい してグ ルー いのか、 プを もちろ いうよ て、 0

こで実務的な指導や交流を行ったのです。 博物館の立場から、 専門家を発見し、

ってもらいました。



るのは、博物館の仕事でもある



プのリー

ダ

と博物館が、

どうともに仕

、ントを

てき

ど関羽の廟で行われているイベントを紹

しましたが、それに関わる三○のグル

と密接にならなけ

ればなりません。

博物館が地域に存在すると、

はり

住民 先ほ

に伝統の祭りに因んだ大渓芸文祭が

これをプラットフォ もっと人を集めて、 A 活動がさらに広がっていくような考え方です。この空間とい にして、 そこに関心をもってくれた人達を集め、 行われる たわけです。 やっていくの 事をしてい 大渓は、 木工品が中心の産業になって < かを模索しながらやっ か、どのようにイベ

空間

を使って、

いる

ので、

行われているわ

it

です。

そこから、

ライフスタイ

ルと結合させたイベント

がどんどんと生まれ

やはりこの地域に根付いた建物のなかで

さらに展示

うのが新しく建てられた博物館の空間のなかではなく、

くるのです。 た空間なので、 博物館は、 日本時代の建物をコア館として使かわれ 自分の物語をも持っています。 昔、 どういうふうに生活 ています。 その ため、 ていたのか、 物館は 人が住ん そ ħ iz で

ても研究し、 展覧会を開催いたしました。

本時代の建物には、 日本の方ではなく、 台湾の方が住んでいたわけです。 修繕するときに、

は変えても、ライフスタイルをそのまま残してい だ修繕するだけでなく、 スタイルが見えてくるのです。 九八歳の長老が参加してくれました。 物語をしっかりと建物の中に残すということを行ったのです。 く だから、 してい さらにいろんな特別展も開催い それぞれの建物で、 それぞれ デザ 0) イ た ラ ン

フ

元のかたちを保ちながら、

住民の精神をどのように残

<

、のか、

私達も考えたわけ

です。

開幕式には一〇四歳、 これらの特別展の全部が大渓の住民と深く関わ っているのです。

113

### 平井 京之介(国立民族学博物館)

## ◎文化としての博物館

すが、それだけではなくて、 物館人類学といわれる領域のものです。この博物館人類学が何かというのは、いろいろな定義が 定義としては、 いる側の人が弱い立場にある。それが、どのように展示に反映されているかを考える。二つ目の いる側と展示されている側とのあいだに、 かということを考えます。このときに重要になってくるのが、権力の問題です。 いる国立民族学博物館では文化資源研究というような言い方もします。 りうるかと思うのですが、 は社会人類学が専門で、 そういうものも含めて研究の対象とする場合もあり、 もう少し広い意味で、 文化を保存したり、 いろんな研究をしているのですが、 一つは、博物館が文化を展示するときに、 博物館というのは、 力の不均衡、 変容したり、 不平等がある場合、多くは、展示されて ふつう一つの建物のことを指すわけで 社会のなかでいろんな機能がある 広い意味での博物館人類学、 そのなかで今日するお話 どのように展示している 特に展示して

三つ目の博物館人類学のあり方ですが、 、博物館の活動そのものを文化として考えるという見方です。 今日、 私がお話したいことの一番のポイントでもある どういう意味かというと、

院の片隅にあります。これをコミュニティー博物館といいます。みなさんご存じだと思いますが、 きな博物館もあるのですが、それとは別に、 台湾には台湾の博物館のあり方、運営の仕方があるのではないか。タイにはタイのあり方、 の仕方、 が千以上あります。タイの博物館には、もちろん国立の立派な博物館もありますし、県立の大 は非常に仏教のさかんな国で、 歴史がある。 こういう見方をしていくわけです。タイにはコミュニティー博物館という それぞれの村にお寺があり、 村の小さな博物館があります。ほとんどが、 そのお寺の一角に博物館があり

すごく面白い のは、 その博物館は、 お寺の一部として運営されます。 ですから当然ともいえ

典とか、 ますが、 これはすごく面白い。 ういう博物館を設けているというのがあります。 仏教に熱心ではなくなったので、 仏教そのものの復興のためというのがあります。 というのが一つ一番大きなものとしてあります。 ですが、コミュニティーのアイデンティティを作り出していく、 それで、 それから、 そういうものが中心になったお寺の博物館なわけです。 展示の内容は仏教に関する物が多いのです。仏像や教 このような博物館が何のためにあるのかということ すべてではありませんが、 タイ独自の博物館のあり方だと思います。 その傾向を変えるために、 多くの博物館が考えて 最近、 もう一つは、





とです。 とかそれを買ってもらおう、 です。 動を取り入れているのですが、 で非常に盛んなのですが、一村一品運動です。 るわけですが、 やったのですが、それぞれの村に自分達の特産品ができたわけ いるのは、博物館を作って、村に観光客を呼び込もうというこ つくって売っていこうということです。これは政府が支援して 織物であったり食べ物であったり、 この村に人を呼び込む活動と関連しているのが、 それを博物館で展示して、 そのもののすぐれた点を宣伝しよ それぞれの村で得意な物を一品 来たお客さんになん いろいろなものがあ 日本でやった活 タイ

これが、 簡単ですが、 タイのコミュニティー博物館の例です。

そのような活動にも利用されています(写真②)。

## ◎マイナスの地域文化

ですが、 になるという事件でした。 次にお話するのは日本の例です。 ある企業が排水のなかに水銀を入れていて、 水俣病というのがありました。六〇年ぐらい前に起きた事件 その水銀に汚染された魚を食べた人が病気

事件があったのは、 事件があった当時は五万人くらいいました。 九州というところの水俣という地域です。 ここに海がありまして、 現在の人口は、 二万五千人くら 町のまんなかに

師がその魚を食べて病気になったという事件でした。 大きな工場があります。この工場が出した汚い水が海を汚染して、 多くはまわりに住んでいる漁

の設立以来、 です。メンバー この事件についてお話していると時間がなくなってしまいますので、今日私がお話したいのは、 G〇の話です。これは、水俣病で被害を受けた人びとを支援するためにつくられたNGO 現在も活動を続けています。 は、 地元の人ではなくて、東京や大阪から集まって来た若者でした。一九七四年

最近何をしているかというと、水俣病の経験を伝えるという活動をしています。 を要求したりとか、そういう活動をやっていたのですが、 彼らは、 最初は裁判をやったり、 座り込みをやったり、被害者を助けるために、 それがある程度一段落したところで、 政府に補償金

ものも、 は言えないけれど、 てることもできる。 ここで僕が言いたいのは、 悲しいけれど地域文化である。それを伝えていくことも大事である。 そういうことなわけです。 それを伝えることによって、ある程度人にきてもらって、まちづくりに役立 地域文化はプラスのものだけではないということです。 あまり大きな声で マイナス  $\mathcal{O}$ 

このNGOは博物館を作りました。といっても手づくりです。 まったくの手づくりです。 栽培がうまくいかなくなったので、こういう博物館にしました。これがその展示で もともとここでキノコを栽培し

あまりきれいじゃないですし、暖房も冷房もありません、それに観にくいです。でも、 スタッフ達が出てきて、 一生懸命解説してくれるのです。 ものすごく力を込めて解 お客さ



写真③

ガイドなど、外から来た人に「ここでこんな事件がおきました、 病を語る、自分達の経験を語ることをしてい によって、いろんなことを学んでい 達の人生に悩んでいるという人が多くて、 東京とか大阪から助けたいということで来たのだけれど、自分 くれます。このときに、 の展示だけではなくて、 くという経験をしてきたわけです。そういう人達がいま、 たとえば、講演をしたり、 僕がおもしろいと思ったのは、

ζ

人生について学んで

る。

活動は博物館 修学旅行の

水俣 61 被害者を助けること

彼等は

広い意味での博物館活動の拠点になっているんですね。 って、 いろんな出来事を紹介する、 こんな文化がありました」と水俣の町を案内したりしています。 そういうような活動をしています。 概要を説明し、 そのあと町へ繰り出して

### ◎関係を構築する

時間 がない ので、 続いてコメントをさせていただきます。

主体が住民というのは当然のことだと思います。 忘れてはならないのが、 三つポイントを言いたいと思います。お二人の先生のお話のなかにでてきたことですけれど、 住民達だけではまずいということだと思います。 一番重要なことだと思います。 外部からきた人との交 でもそのときに

お互いのことが理解でき、 流があって、はじめて、 例えば、 つながる。それを共学という言葉で、 いう人達が一緒にやることによって相互に理解することができる。たとえば伊達先生の説明のな もう一つは、違う立場の人が一緒に活動することによって相互に理解ができるということで、 にあった、 ひとつの地域の人であっても、同じではない。 学生さんと、 物語ができるんだと思います。参加する、 そこに関係が生まれる。 地元のお年寄りが一緒にやると、 おっしゃってましたが、 地域のなかにもいろんな人がいる。 それぞれが学べるだけではなくて、 ひとつ大事なことだと考えます。 一緒にやることが学ぶことに

のプラットフォ 先生のお話のなかに、討論会をやったりお祭りをやったりすることが、 いくかということが、 三つ目は、こういうことをやるときに一番問題になるのが、 そういうときに重要な役割を果たすのは行政だと思います。 ームになり、 重要なのではないかと思います。 それを継続していくことができているということがありましたけれ 持続性ではないかと思います。 行政が住民とどうやってやって よいコミュニケーション

どうしてもお金はかかります。ある程度、 お金儲けだけを考えてしまうと、 そうするといつかどこか違うところへいってしまうのではないかという心配がつねに 大切な文化や技術の伝承からは離れて、 自分達で財政を獲得することも大事だと思うのです そればかりになっ

説してくれます。自分達が何をしてきたかということを語って

### コメント

# 黄 貞燕 (国立台北芸術大学准教授)

はないかと思うのです。 としてつかわれていると皆さんは認識していると思います。 たい何ができるのかをみなさんとお話したいのです。 域では、 ときは、 は博物館学を研究しています。 いうのは、単なる場所ではなく、 基本的にはパブリックを対象に開放していると思います。地域文化をパブリックに開放 公立でも私立でも行政的な部門からいろんな支援は受けています。また、こうい ですので、博物館が地域文化の保存、活用、発見において、 もっと高い関心をもちあう場所として、 博物館は重要で、 しかし、 地域の文化を保存していく それからパワフルな道具 というところで った地

ます。お互い、理解しているように見えますが、そうではないという感じもします。 な脈略にかなりの差が出てくると思います。 ほど差がありません。しかし、 し台湾では去年です。この法令の内容から見てみますと、両国の法令の目的や規範の範囲はそ お互い関心をもち合うことによって、新たな学習能力が生まれてくる。 五〇年に文化財保護法、 一つの文化であり、 翌五一年には博物館法というように、 博物館の仕事とは、文化的な思想や考え方がはい これまでの話、 台湾と日本のあいだでは、 特に平井先生の話のなかでは、 法令が作られたわけです。 交流が頻繁に行われてい それがないと、 博物館での事業 っているという 社会的

くのか、これを考えなければならないと思います。 本と同じような博物館法はありますが、この法律によって博物館がどのように台湾で機能して がありました。 ですので、それぞれの地域の生活のなかで、どういう役割をはたしているの

なければならない、また、地域の文化の保存は、有識者たちが中心にやっているという様なイメー 的な資料の収集や整理など、 があまりなくて、 ジがあります。 ような民俗資料館もあまりありません。 台湾でやっていくの 本では文化財や博物館に関連する法律が発効してから五○年が経ちました。それで、 日本ではモノがあるから、 何を主体としてやっていけばよいのかわからないし、日本の多く はミッションインポッシブル 全部を博物館の職員が専門職としてやってきました。林先生の話で そのモノから発想するのですが、 のような感じ、 いろんな技をつかっていか 台湾の方ではその物 の地域にある

運営の仕方ですが、 りするというようなことは、 日 いろんな拘束や制限がなくなったので、それからは、一般の方が地域文化の保存や発見とい 事を担っているというような感じになっています。もちろん、 本では、文化財は博物館、資料は民俗資料館がそれぞれ担っているという感じです。 少し違います。 っています。 個人的な感情とか思いがわりとかかわってくるのです。 台湾で地域文化が検討されるようになったのは、やはり戒厳令の解除以降で 公的部門が大量に資金を投入したり、 台湾にないように思います。 制度面ではすごくプロフェショナル あるいはマンパワーを投入した そこには、 個人的な感情など でも台

物館が パブリックに開放するだけでなく、 個人的な思いに関心をもつためには、 もっと高い

思います。そこからプロフェッショナルの力が必要になってくると思います。 なく、そこからもう少しエネルギーやパワーをもらうためには、公的な部門のパワーが必要だと レベルにはいっていかなければならない。何か話したり、言葉の練習をしたりしてもらうだけで

ルをどういうふうに結合させていくかがこれからの台湾の課題だと思います。 台湾の博物館法ができて以来、もともとあった個人的な思い、つまり民間のレ ベ ルと政府レベ

# セッション5 大渓における実践事例と活動の実態

# **〔ブリック・ヒストリーを主軸とした地方史** 大渓木芸生態博物館の四連棟常設展

欣琳 (桃園市立大渓木芸生態博物館収蔵展示係)

示だけではなく。 昨年の一〇月二一日に、大渓木芸生態博物館は開館しました。そして、こちらの博物館は、展 現在私達がやっている常設展示と大渓との関連性についてお話したいと思います。 いろんな活動もしています。イベントをつねに企画し続けている博物館なので

の博物館の中心は大渓に住む人びとだということです。 たくさんの言葉でこの博物館の特徴を説明することができると思いますが、一番重要なのはこ

にきてもらえる、 大渓には、たくさんの興味深い人がいました。そして現在大渓に住んでいる人達は、 また将来も、みなさんに参加してもらえることを期待しています。 みなさん

物を利用して博物館あるいは展示館に使いたいと考えてきました。こちらの博物館のイニシャル らあった警察官舎を政府が歴史建築として登録しましたが、それまでにも地元の人達は、古い建 この博物館は、 二〇年間の地域づくりの基礎のうえに誕生しました。二〇一二年に日本時代か



物館は地元の

人との徹底した話合い

によ ح

0

の博

ているものと考えられていますが、

要です。

一般的な博物館は、

政府が運営

的ではなく、

住民の方との密接な関係が必

ます。

もちろん

コミュニケーションも

一方

という意図を込め

7

参加してもら つくったり

する

ではなく

みなさん

13

が 企画

したり、 て、

は W E、

つまり私

の博物館です。

0)

博物館のボランティアは常設展で来館者を案内する

情熱的に参加 て運営しているというのが特徴です。 よく私達はボランティ 四連棟とよばれている建物のなか、 「私も大渓の人です」と自己紹介し るときには、 しています。 中心はあくまでも大渓の人です。 多くののボランティ してくれます そしてガイド ボランティアの人達は必 アの方々と話を アのみなさん ツアーをし ほんとうに が

という地方はどんな価値観をもたらしてくれるのかというようなマクロ的な歴史を展示の 簡単な紹介のみを展示し、詳しいことはその場所に足を運んでもらうというかたちをとりました。 などを含めることはなかなかできません。 展示がつくられました。 自分の家族の歴史を展示することをテー 常設展示では、 の歴史については、それぞれコー マに据えたわけです。 大渓の発展の経緯や、 常設展は、 その一方で、 大渓の町をテーマとしてやっていますので、 ナー 大渓の町 台湾で大渓はどういう位置付けなのか、 マとし をつくりました。 常設展示は、とにかく大渓という地域の入口として、 て作り上げました。二〇一五年には、 の住民がどんな生活を送ってきたのかというミ ある 周りの自然環境 は、 街角館で メイン 大渓

が手にはいらないとか、 生活展をひらきました。生活展とは、 化というの 0) があ 大渓の人達の物語を教えてもらうという展示でした。 りますが、 深い 本当に町のものですので、 内容を知ることができないという感想がありました。 自分の家のなかのものに、 町の人達と深く交流しないとなかなか資料 大渓にはお祭りに関する社 どういう物語があるかを展示す 頭文

てもらうという意味があります。社頭をどのように保存していくかも考えました。 先週の日曜日に、 社頭文化の特別展をひらきました。この展覧会は、 を 知

るわけです。 も構築し続けていくというイ は感じました。 博物館というのは何 四連棟の常設展示で、 博物館をつくることで、 か目的があって設立されるわけではなくて、 メージです。 いろんなテ まわり Ó マがあり、 人間を巻き込むような感じで町づくりもしてい 現在が完成形ではなくて、 手段としてつかうものだと私 これから

町の人々と一緒に町のことを調 てからもそのまま残る をしています。 これは、

るだけ展示にあわ 博物館のニー プを経て右の方に館内 四連棟は現代的 壁の外 ズにあわせて、 から、 せてつくっ 昔の青い なステン 写真② 四連棟の昔の住所標識。博物館になっ 7 一つの大きな空間につくりかえています。 ます。 色の住所標識が見えます。 レスの入口ですが、  $\Box$ 代表的な大家族や有名人や一般の人びとの生活や生業を紹 大漢渓であるということを知っ に美しい風景、 る川の名前ですが、 があります。 たということを説明 そして現在に至るさまざまな時代に大渓に住ん なところから沢 「大渓に誰が住んでい 最初 街並みがあるの 建物の内部は古いままの のコー れています。 まずみなさんに、 山 現在の動線はゲ の人が ています。 は てもらいたいからです。 か、 「大漢渓」です。 清の時代から日本統治時代、 大渓にきて、 たのか」です。 その源にな 壁などの 大渓にはなぜこ マル チメディアなどい トをは ものが ハード面はでき ここで生活 っている なる時代 って、 のよう

のプレゼン ター が紹介する源古本舗という店



写真④ 大渓の長老をインタブューして 常設展で放送する



写真③ 杳する

で紹介しています。 大渓においては重要な老舗です。 そういうお店も博物

彼女を紹介して もたくさんいました。 次は文化に関わる人び 飛もこちらの て生活を営んでい います。 出身ですので、 亡くなりましたが、 との ますが、 紹介です。 学校教育のコーナーもあり 重要な文化的な象徴 文化 大渓には沢 ・芸術に尽力 台湾の有名な歌手、 山 した人 0

しました。 ここでは二つのコー そして出口を通ると、 にも大渓 物語を語 示という位置 よる物語のコ 的な工芸品 そう ここに したがっ って 0 0 や技術を紹介しています。 たコ いる様子などを紹介して 工芸の話にもつなが け ナ て後ろの部分が増築された部分でした。  $\lambda$ です で 後ろの建物へとつながっていきます。 をもうけています。 です。 ナ た人達は、 を設けて 九四歳 これは、 家族がふえたので増築 13 のおじ 0 ます。 常設展示のなかの特 ている部分があ います。 そして、 一つは木工芸で、 いちゃ またその隣 んが彼自 大渓の人 の話

既に現在の

状況にちか

ったのですが、昔の四世代の建物がつながっている感じでした。その後、

します。私が博物館に勤めはじめたころには、

かたちとしては

これ

から四連棟につい

てご紹介

129



常設展のオープンニングで見に来た二人の長老が久しぶりにあった場面

かで自 方も来てくれまし た価値が私達もはじめてわかりました。 た方から、 のときに来て、 た調査に関 館の で 分の話を語 7 この四連棟の展示で こてく 0) 九〇歳の のお年寄りが来館されました。 そし 「私の写真が展示され ときも積極的 れま 地元の 彼だけ て家族と一緒に開幕式 の展示を見に づくりの大先輩 た。 いてく 大渓にお 方ですが、 私達に すでに みなさん 度自 独立 に参加 と濃 れた九四歳 13 にきてく 大渓に 巡密な交流 一展示のな 分の故 とっ てはそう が開 してく 工場 ては 健 住 館 0 0 郷



7

た道具

などもたくさん

ŧ

それ

か

方

 $\lambda$ 

が

 $\mathcal{O}$ 

この

展示をやって

11

たときには

やは ら地 お祭り

開館の日

この展示をや

振り返る展示をしています。そちらで大規模な展示をやっていますので、この四連棟のなか 大渓の地域づくりを紹介しています。現在、大渓公會堂というところでは、 た方の家に訪問してい た方には本当に感謝 博物館が所有していたものではなくて、 しか触れていません。 っません。 自分の考え方、自分の信念などを伝えてくれるコーナーです。 コレ ろんな道具をみせてもら クションもありません。 しています。 た道具だけでも一つの特別展示ができるのではない 最後は、協力者のコーナー 例えば、大漢渓を紹介するコ この 一般の方々から収集してきたものです。提 ました。 四連棟展示のなかでみなさん ・です。 木材加工をするときにつかって 過去に博物館 -では、林業をやっ 大渓の地域づく づくりに携わっ いま私達には、 かと思 んが見てい 0

る展示品は、 収蔵空間はあ

れた人びとが、

少しだけ

写真や手書きの書類をたくさん保存されて た選挙通知票など、 ます。 地域づく そのなかには、 りに関する資料展示もあります。 頭文化 貴重な歴史資料 例えば、 の調 昔の写真や選挙の 査をして が保存されて るおじ とても厚 ときに います。 61 ちゃ 61 冊子

5

で 0

すが、もう少しきれいな写真にしてください」というかわいい要望がありました。とてもうれ かったです。

は漢方薬を中心に、 在大渓においては、古いお店、まだ調査されていないお店、 ができるのではないかと思います。例えば、現在源古本舗の展示をしているのですが、次の展示 もし、将来どう調査し、どう展示するという枠組みができていれば、より明確なイメージがでて ていきたいと思います。たとえば町家の生活を例にして、展示をやっていきたいと思います。現 くると思います。また、今後、各業界に対する調査もしたいと思っています。漢方薬産業の調査 これからですが、やはりこの四連棟の展示を一つの枠組みとして、将来もいろんな試みをやっ 展示、 調査、そして教育推進ができるのではないかと思います。 あるいは家屋がたくさんあります。

でも政府が運営しているので、この二者の役割をいかにバランスをとっていくのか、 地を語ってもらいたい。そのなかで、私達博物館側は、 したいと思います。最終的な目的は、大渓の人に自分のふるさとの話を語ってもらうことです。 していけるのか、 もう少しローカルな方とコミュニケーションをとって、 また、実際のフィールドワークのツアーを組んでみたり、講演会、セミナーなども開催したり いわゆる大渓学という概念が、いままでより、明確になってきました。この大渓学というのは、 しさ、あるいは適切さを判断する必要もあります。また地方産業が重要ですが、 検討していく余地があるのではないかなと思います。 やはり学術的な観点によってそうい 彼等自身の口から、自分の住んでいる土 った

# セッション5 大渓における実践事例と活動の実態

## 生活と古い家の保存と活用 大渓の源古本舗の再生計画

1 正君(大渓古家管理者)

たのです。 のです。まわりは木製品をあつかっているので、その木材を活用できるんです。釜がうちには三 だから釜に火をおこし、薪をたきながら、冬に二時間をかけてお湯を沸かさなければならなかっ きに家からでたいと思いました。なぜかというと、湯沸かし器がないのです。 とを話さなければなりません。この空間は一八○年くらいの歴史がありますが、私は一八歳のと かかりました。二時間かけなければ、 かすというようなことです。近所に木材をもらいにいって、 つあって、二つは店にあって、 りふるさとから出て行くというようなことだったんです。 ん。だから、大学にうかったら絶対家から出る、お湯を沸かすことから離れたい。家出というよ 源古本舗の再生計画をお話する前に、何故私が、大渓、そして、自分の家に戻ったかというこ 私はかなり活発な性格で、外にでかけたいのですが、 お菓子をつくっていました。もう一つは母屋にあって、 お風呂にはいれない。水も井戸からくまなければなりませ うちはおかし屋さんでしたが、 木屑で火をおこすのに時間がかなり お湯を沸かさなければならない ガスもありません。 お湯をわ



写真① 源古本舗の中庭

と不思議に思えたんですね。

の家にどういう貢献をしましたか」 たうちが ろんなビデオが流れて で大渓は有名な町づくりの の根がつい もらって、 の旅でした。 しました。そこでは、 いました。 ペに勝ったら上海に 台湾の方々 私はどう答えたらいいかわからなくなって、 航空会社と PR 会社の連携による一年間 でたんです。 私は何もやっていません」としか言えま てい 建築関係の 映像を見ながら、 上海ではたくさんの広告マ もう一つ、 みんなから「じゃあ、 いろんな建築物や広告を出 たんです ががんば ケ いろん ました。 分の 遊びに行 っていたわけです ・ススタ 例 なパ 流される映像のなか としてとりあげられ 心のなかで、 「あれ私の家ですよ」 そのなかっ けると ったときのこと と聞かれたん あなたは自分 テ いう賞を 何らか で、 て、 その ため ま

客数が減り、 父は店をたたみ、隣の木製品の倉庫として貸していました。 一日の売り 上げはあまりよくありませんでした。有名なおかし屋さんだったのです

友達もいたのでけっこう遊びに行っていました。だから大渓が故郷からはなれているあいだにど

でもなぜ戻ってくることにしたのか、

のも人生最大の魅力と思っていました。カナダやアメリカなどには、移民した

私はPR関係の勉強をした後、広告の会社で働い

んな変化があるかまったく気がつかなかったのです。

かのサインがあったんですね。一度出張でカナダへいったときに乗った JAL

な風景を紹介するコラムがありました。そこには、「台湾に旅するならば、

い小さな町で、日本時代には繁栄していた湊町で、

ろん

自分でも不思議に思います。

くこの生活から離れられるということで、私は喜びました。

なのに私は何故戻ってきたか。

ていました。

んなところで遊ぶ

有名なのかと感じました。

もし運がよければ、

のせていた写真は別世界みたいな感じで一つの象徴のようでした。

源古本舗の見学ができますよ」というような記事がありました。

日本人が残したいろんな建物もあり

その

大渓がすごく

の機内誌に、

町づくりの林先生などが、

この家屋を利用して、

事務所として使って 自分の家がこんなに

それを見たときに、「あれ、こ

たんです。だからその機内誌で家屋の紹介をしていたんです。

どうして私は知らない?」というような感じでした。その一方で「この家がどれ

でしょ」というような感じもありました。まだこのと

とうにすごく雑然としているのになぜこんなにきれいな角度から自分の家をみてくれたん

それほど感動はしなかったのです。

やは

りこの壁とか、

柱の後ろには雑草が生えていて、

あなた達は知らない

大渓に戻るべきだと決意しました。 でした。どういったことが起こったのかまったくわからなかったのです。 で本当に大渓に戻ってきました。 だからそのときに

年に調査を終えたのです 文化資産になれ修繕計画を出せば、 まってました。屋根が傾き出してい ばないことに気がついたんです。ある週末に帰ってくると、自分の商品が全部水浸しになって じになってるんです。 の窓口に修繕はできるかときいてみたら「考えが甘いですよ」という答えでした。 な修理とか修繕をしていたわけです。 です。うちの親は、 かを販売するという目的で自分がふるさとに戻ってくる、というような気持ちを取り戻したわ よ」とも言われました。 しっか 「しかもあなたのところは民家だし、 修繕のときに かわからない とくにこうい 毎日戻ってくるのではなくて、週末に戻ってきて家で店を開こうと思った り家族を説得して、 もちろん、すごくよろこんで、両親が店をみてくれていて、 どうし 0) いちいち許可をもらわなけ です。自分の家が文化資産に った有形文化資産の修繕に対しては、 たぶん百年待たなくてはならないといわれたんです。 私はかなり落胆しました。 たらよいかわかりません 自分のうちのどこが壊れているのかというのを調査し、 何か補助金がでるということでした。それで、 て、水漏れがひどかったのです。それで、いろ でも修繕とか片付けのあいだに、自分の力がなかなかおよ お寺とか政府の建築物ではないので、 れば になってい でし いけ ようやく家族を説得したのに、 た。 ない るので、 あとにあとにと回されるような感 でも家族を説得 府が私の大家さんみたい 勝手に修繕は 私は家の いろ調べると、 私は二〇一一 政府の予算と 家族と相談 修繕する道を 考えが甘い 6 できないん どう です。 いろ



写真② 源古本舗の前身、古裕発といった有名なお菓子屋さん

素晴ら 付きました。いろんな想像が私の頭に沸い のような歴史を利用できるのではないかと思いました。また、 お菓子をつくっていて、 治時代には私達のお店は「古裕発」という名前の店でした。 んよ」 統領とか有名な人に注目 選んだので、 か。役所の人からは「マスコミにとりあげられる のような家屋がみなさんに注目されるにはどうしたら じゃあやってやろうじゃない と言われました。私も端くれでも PR い家屋であると、 始末しなければならないと思ったんです。 とても有名だったのです。 されないとなかなか予算はおりませ 修理して行くあいだに私自身も気 かと思いました。 てきました。昔、 業界出身です 日本統 か、大

のヨー 店だったんです の地方からも私達の 修繕して 達の を沸 口 そこで私は、それがきっかけとなって、 お店 ッパのまちで、 いる例もみました。例えばルイヴィトンとかいった世界的なブランド かしていた嫌な記憶もだんだんと薄れました。 「古裕発」は、 ね。 現在は、 「古裕発」にきて、 古い家屋を利用してお店にしたりしている。そういう例がたくさんあり 食事もだしていますが、 台北でもビジネスをやっていました。 おか しを買って、 自分の家の空間をみつめるようにしてみま 必ず焼きビー そして世界各国でそういった古い家屋を 自分の村へもどって売るという、 フンというメニュー 台北だけでは は、 フランスなど なく、 がありま

ましたので、干 方はこの焼きビー 食べてもらいたいという、 フンは他の地方から家に仕入れに来たときには、 し椎茸とか、 フンを食べて非常によろこんでいたという記憶がありました。 そうい おもてなしとして必ずだしていました。うちでは卸問屋をやって った食材がたくさんありました。なので、 やはり、 その人達にもお腹 仕入れにきてい 13 っぱ

所さんは、 んです。 、れます。 そうと思っていました。 も「こうい の家に住んで私が五代目ですが、 レンジしてみようと思ってい そうい 今日は誰々がきませんね、 バイスをくれました。 たとえば、端午の節句には、ご近所さんはうちに集まって、 私が台北から大渓に戻ることが不思議だったようですが、私がお店を経営してい で日 てよと言わ うものは売ったらいけない」とか 本の侘び寂びのような風情を出している壁だから」と必ずこれだけはもとのまま った子どものときの記憶も私 れることもありました。 そし 一方、うちの父親からは「この壁だけは絶対い たんです。 て政府から百年待たないと補助金が降りないということに私も 誰々と話していましたねと話していた記憶があります。 私は近くの市場へい そこで私が思いついたのは、 のなかにありました。 ですから私は、 「こんなものの方が売れるんですよ」とかいろ くとかならず、 伝統のものも残しながら新 昔の生活の記憶です。 雑談しながら粽をつくる 周り 季節に合わせたイ じってはいけない の方が声 厂をか ご近 ると 方に

人達もふるさとに戻る機会はあります。 大渓から台湾のほかのところ、 あるい そこでそうい は外国に出てい った人達向け った人もたくさんいますが、 にイベントを企画ました。 そうい



大渓の長老を集まって昔話をしてもらう

うことを考えました。 それだけではなく、 ほかの使いかたも駆使して、 そこで地域づくりの経費を申請してみました。はじめ 連して です。そのお金で実施したことにより、地元や地元と関 りた補助金は一〇万台湾ドルです。 いるのは、そういうことをやっている雰囲気です。 いる人との つながりができたからです。 私のやり方をみなさんにみても 当時はもちろん予算は重要な問 すごくうれ 私が大事 しかった てお

サポ

してくれた人も感動していました。

三、四年くら

いこのようなことをやっていまし

題ですけれど、

里帰りのときに自分で粽をつくるとかをやってみました。

たいとい

呼び起こしたい のような生活の美学という手法を利用して、 の美しさ、 建築で何か物語りはできない 季節にあわせていろんなイベ あるいは繁盛してい 例えば、 うちの建築はきれいです、 かと思っていました。 たときの記憶をもう一度 ントを企画しまし 台湾 た。 の過去

さらによろこん たみたいで、 近所のおじさん達は、 昔話に華を咲かせます。 でいました。 集まって話す のが一番嬉しか 観光客がくると、

それ

で、

この物語や雑談を定期的にできないかと思

137

ろうとしているのはチー

に気づ

61 てほ

13

からです。

今では家屋の活性化というテー

マで補助金もいただきました。

ある

11

は地元出身の

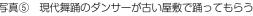
T

テ

Ź

スト







写真④ 源古茶席

な写真を撮っ

てイギリスの雑誌におくりました。

すると雑誌 このきれ

から飲食に注目

してみたいと思いました。

おじさん達に物語を語ってもらえるような企画をしました。

先ほど紹介した粽づくりの

イベントの

かたわらで

私はその

雑誌が撮ってく

彼等がつくりましたが、

東洋式の結婚式を演出してみました。

れた写真を政府におくりまし

た。

の空間を是非保存して

11 いきたい の方がきて、

うちの空間を利用して、

デコレー

ショ

ンなどは

だましたというと聞こえがわるいですが、 づくわか まともに考えてくれないということが、 と主張するためです。 と百年なんて待てません、 する機会をつくり

っててい

ましたから、

んな方法で、

こうい

った

現実問題とし

てつく

マ

ス

コミにとりあげられない

と政府は

っました。

それ いろ

をも

61

ろんな手段を駆

って説得しました。

政府側を説得してみました。

な目的は、 ろと協力してくれまし ということです。 たくさんのイベントを企画しましたが、 お隣さんに私が何をやっているのかを伝えていきた 瓦は、 た。 私が瓦に関する活動をし ほんとうは使わない 近隣の方 廃材なんです。 た一番・ 々も 13 大き ろ

こんだりしました。今年は家屋の修繕の第二段階、 この廃材も工場にお願い けでなく、 階まで進むことになりますけ 昔の廃材でもちゃ してもら れど、 んとつかえる材料 いました。瓦を床には 修繕するときには瓦 第三段

例えば写真をとったり、 可能性を十分理解し プなものではなくて、 いろいろ使えるものもあって、 伝統のなかでみなさんが使っていたもの プに、 がもどって活動することを応援するとかもして クシ 彐 で資料を貸して下さいと言われました。 私達の家のなかで、 をやるときに場所を提供するということもしました。 ているのです。 の博物館の地域 昔の伝統や生活のなかの美しさ、 ビデオをみせたりしています。 特に私は、 パフォ そして、 べづくり 昔、 の団体 古い物を マンスをやっ のなかには、 PR 会社につとめ から、 いろん 私はよろこん かに 繊細さをみなさ 13 ・ます。 展示をやる てもらったり 実は 現代 なイ 現在 ~ 0 ント 生活 7 Ŕ 0

たので、

こう

した需要の

に運用してい

くのか、

貸し出しました。

過去の

生活、

い生活のなかでも、

も企画しています。

ダン

スグル

もしました。

あとお年寄り

して演出してもらう

を使うようにしています。

# セッション 5 大渓における実践事例と活動の実態

# 民家と家族の記憶と技能

# ――家からまちかど博物館へ

清剋(下街四十番地アトリエ責任者兼館長)

住所になっていて、 一八九二年です。伝統的長屋形式で、 継いできた伝統工芸店を運営しています。 の工房があるの 住所をそのままこの工房の名前にしました。 は、 ちょうど私の祖父が住んでいたところです。下街四十番地とい 前が店舗、 後ろが居住空間です。 この建物が建てられたのは ここで、 私の祖父から受 うの が

この建物のなかで、自分達家族がもっている技術や道具、材料などを展示しています。 街角館

をどのように保存していくのかという話題をもちだしました。 のことを語る前に、 ちょうどその頃、 いろありますので、 まずは歴史的な建造物を保存しようということからはじめました。建造物といってもい いかに注視してもらうかということです。 文化をどう広めるかということに、 どれからスター 私が町づくりをやろうとなったのかについ するのかと話し合った結果、私のところからはじめるこ そのとき私達の街の みんながすごく努力していました。大渓 それ で、 てお話 いろんな予算をつくった リーダーが、 します 大渓の文化



写真② 「下街四十番地」の入り口の 昔の様子



写真① 大渓の街並みの昔の風景

その活動がスタート

しました。

小麦人形づくりのようなワークショップを開催しました。まず、ボランティアとして子ども向けのワークショップや、繕にボランティアとして参加することになりました。私はこの町づくり、あるいは、建造物の修とになりました。私はこの町づくり、あるいは、建造物の修

う風潮があって、看板をどうきれいに揃えるかというところそして、当時、台湾ではいろんな看板をとりかえようとい小麦人形づくりのようなワークショップを開催しました。まず、ボランティアとして子ども向けのワークショップや、

つとりあげられました。ごづくりの博覧会にも出展しました。看板も出展作品としてこのころになって大渓はある程度有名になってきました。

も保存しなければならない段階にはいりました。した。有形の建造物を修繕したわけですが、このように無形きました。獅子舞もあって、それはコンテストになっていま渓の文化祭でイベントを開催しました。ポスターは、私が描形のものはどうしたらいいかという話が出ました。それで大修繕が完成したときに、これまでは有形のものですが、無

、て、祖父の名刺になったんです。仏像づくりが、家族が継手元には、祖父の兄の名刺があります。お兄さんが亡くなっ

「下街四十番地」のなかの昔の様子 ならいました。それから次男はかなり有名なレストランで修行 人の息子が ろんなおもちゃを販売することにしました。 からいろんな技術を伝承してもらいました。 承してきた仕事です。 らなりません。 家族の工芸を紹介するためには、 工房にしても店舗にしても、 子どもの頃からおじいさんと住んでい いました。大陸から仏像造りの師匠を迎えて、



清の終りの頃には一応、

曽祖父から説明しなけ

な

木工芸を営んでい

て、 れば

兀

長男が

料理人になりました。

三男は長男の仏像づ

つくりがか

んばしく

ない

ので、、

*7* \

ン

コなど

61

街角館としての現在の展示風景

をつくりました。 を受けつぎました。 長男が亡くなった後、 いました。 インティングなどの過程がありかなり複雑です。 仏像の彫刻に 絹の上に絵を描いたり、 祖父は、 四男である祖父が、 は、 仏像造りを粘土からと木からの両 まず木材の選択、 ガラス工芸に絵を書 兄達の工芸技術全部 かたとり、 さらに

色塗りをしてやっと完成品です。

兄弟よりも歳がだい ていた人が多かったのです。 した。私が小さいときは、叔父達は、あまり手工芸をやりたくないと言って、公務員や貿易をやっ 大渓においては、 木工芸だけではなくて、 ぶ上です。 私の母親が長女でして、 私はずっと祖父と住んでいて、 漆工の業界でも祖父がたくさんのことをやっていま 叔父達が結婚するのが遅かったので、 自然に家の技術を受け 継ぐかたち

先生のお孫さん」として名前が通っています。 お前は私の仕事を受け継ぐんだから、夜間学校に通いなさい が進学するときには、 当初、 普通の高校にいこうと思ってい とい たのですが、 われました。 祖父から、 私は地元では「全

に見えますが、実際にやってみると、 人形をつくるには、竹細工でなかの骨組みをつくらないといけません。こうい 紙をよって形をつくります。 かなり難しくて、 経験を要する技術です。 骨組みができた った作業は簡単

のときに料理を出す役を担っていました。そして、 粘土で形をつくって、 細工も得意でした。 できれいな食べ物を作る習慣がありました。 大渓では、獅子舞に使われている道具をつくる風習があります。 あります。これは、 一つの型をつくっ また印鑑造りも得意にしてい それを乾かして型としてつかいます。現代の方法だと、 信仰に関連するものですが、 て、 龍のかたちなど、 実は私の祖父は、 より繊細なかたちができます。 て、 そのとき、 祖父の二番目のお兄さんは、 日本統治時代に一番多かった仕事は印鑑造 木彫りだけでなくて、 料理が豪勢に見えるように、 昔は紙でつくりました。 手法は殆ど同じで 小麦粉 お寺のお祭り 小麦の 人形という 人形 小麦

祖父が七一歳のとき、私は中学校を卒業し

るので、

小さな頃

何をやればい

13

かと考えた末、

Vì

お年寄りは自分の印鑑を小さな巾着にい りでした。 た以外に、 誰でもつくれるわけではなく、 民間信仰にも 印鑑が使われています。 れて腰回りにつけていました。 免許制だったんです。昔の生活では重要だったので、 日本統治時代に重要だっ

たの 彫り そしてまた、木でいろんな彫像、 ですが、彼がもともと木彫りに使っていた道具を譲ってくれたのです。 の仕事はあまり やっていませんでした。祖父の親友が、ふるさとを離れて遠くへ 花などをつくる技術もありました。 私の祖父は、 61 もともと木 0 7 しまっ

入れ で木 粘土の部分と木の部分が非常に対照的なものができます。一般の家庭ではなかなかこういう工芸 たい部分を彫って取り出 のなかにはめ込むというような技術もありました。まずこの木の上 の末期から 日 本時代にかけて、 [します。 いろんな伝統的な技法が残されていましたが、 それで、粘土を木のなかに入れる。 品はみられません。 で模様をつくり、 そうすることによっ 例 えば、 粘土を て、



写真⑤ 筆者は伝統工芸の匠

されてきた技術です。 墨を使う技術もあります。 るのを見かけます。 例えば西洋式の棚では装飾的な模様が彫ら またその粘土を使う以外 日本の大正時代 から残 にも れ 7

日本統治時代に残されていた習慣です。 墨の絵だけではなくて、 祖父はお寺のために、 宗教の絵も 色付きの絵もあ かい 7 Н



昔使っていた道具も展示さ れています

が見ら んが描いていました。神像などが窓だったりベッドの上の方の板だったりに装飾されていたもの した。ここは、 そういった古い伝統的な技術だけではなく、 またオランダ いまは、 れます。 ついたん 時代の変化によって大渓の伝統工芸を新しい物に託して、 わりと生活のなかに密接しているキーホ です。木工芸の技術プラス風車という組み合わせで、工芸品をつくりま 人の影響を受けたステンドグラスみたいな絵もあります。 に近い ので造船技術もありました。 角館のなかで展示しているのは、このようなものです。 の墨書きの技術をつかっています。 つまり、 私が経営している街角館は、 しいものも考えなくてはなら 船は ルダーやハガキ、 風によって動いてい いろんな新製品をつくりまし 現在私達が所有し 祖父の三番目 のカバ たの で、 私は風 ている街 つって 0 などに昔 お兄さ 13 ま 車

本の屛風とか天井に描かれていた絵がありますが、

それをこちらでは木に描くことになりました。

これ そし 家族 て、 の歴史、 ていたの からもこの空間を利用して、 それらは、 私の祖父や彼の兄弟達がつかっていた道具や作品です。 大渓の歴史をみなさんに伝えたいと思っています。 で、 その家族の力によってつくってい 大渓の工芸の発展を代表していますので、 小型の博物館という形で私の 家族がたくさんの技術を た芸術品、

## セッション5 大渓における実践事例と活動の実態

## 学習の資源とし しての地域文化

## 蘭室を例とし

昕 ( 蘭室文創株式会社 CEO)

てきて、 蘭室は、 練の職人さんが彫ったものだと推測されています。 ています。もともとは町屋で、一三番というところを購入して会社の事務所にしたわけです。 いました。窓や棚などに、 「蘭室」というのは、 「蘭室があいている」という情報を得て、はいることができました。なかを案内してもら なかなかドアが開いていないということで有名でしたが、二○一四年に偶然ご主人が帰っ 私は台湾でいろいろな街づくりの仕事をやってきて、 ほとんど何も手を付けられず昔のまま残っているという感じでした。 看板に掲げている文字です。だから私の会社は蘭室文創株式会社となって いろんな彫刻がほどこされている。それらは、当時、 ですから、一般の民家で見られるものとは違っ すでに二〇年になります。 かなり有名で熟 かつて

渓の一員になれるのがすごくうれしくて、 蘭室を八名の共同出資で購入しました。 「古い屋敷は自分で自分の主人を選ぶ」というような話がありますが、 私達はこの屋敷に選ばれたと思っています。 私達は幸運にもこの大

これは結構特殊な例で、 全員がもともと大渓の住民で



き

写真② 蘭室の入り口の門



写真① 蘭室の真正面

保存していこうと心に決めています。 はありませんでした。でもこの古い家を、 私達の手できちん

都の職人の作品を理解し、よいものがあれば、 うと考えていました。竹中大工道具館にもいきました。 ようにやっているのかを見て、現地の人達と交流もしました。 職人工房とか、 いのかを考えました。参考にするため日本も訪ねました。 私達のチームは、 倉敷の美観地区も見学しました。日本ではどの 蘭室を保存するには、何をどのようにやれば 台湾にも導入しよ

ました。 審査はなしということでそのまま展覧会に参加することができ 真似をして学びました。台北で三回特賞をもらったので、 に建てられた建造物です。 すが自分の息子、 て、そのあと土地を寄付して学校としてつかってもらうという、 小さな頃から絵が好きで、 チャリティー活動をやっていた人でした。肖像画が残っていま 蘭室の歴史は、呂家の鷹揚と鐵州の古い屋敷で、 教育をおこないました。一八九九年に大渓の町長になっ 鐵州は一九二五年に別のところに移ったのですが、 鐵州に描いてもらったものですす。 大陸からいろんな画集を買ってきて、 鷹揚は大渓の秀才で、 自分の家を開 一九一八年 鐵州は、 もう



人々

蘭室を購入して一緒に運営する

補助金がもらえます。待たなければいけませんが、補助金があ していくにはお金がかかります。歴史的な建造物に登録すれば、

達が購入する前、すでに六~七年は、だれも使っていませんでした。 写真(3) 味があるのだと思いました。 と、特にこの蘭室は呂鷹揚と鐵州の実家だったので、 分達に課す使命は、ぜひ大渓の文化資産を受け継い にはすばらしい芸術の資産がありました。私達のチー ればということで、メンバーの同意を得て登録しました。 そして、大渓の文化を受け継ぐのも私達の使命です。 危険な部分をとりは

でいこう

ムが自 大渓

やる意

5 0

の住宅ですので、 去年の五月一八日に、 一般の方々はなかにはいる機会がありませんでした。 博物館の特別展示として空間を提供しました。もともとプライベート 全部整理して、 やっと開

ていました。

例えば中庭に薪棚がありますが、

実は少しあぶない柱がありました。

まず安全性を確保

7

館できたの が去年の五月でした。

の元のオ 八月に街角館の補助金をいただき、 である呂親子の物語も知ってもらいたいということで、この展示をやりました。 鷹揚と鐵州 の画集作品の展示を行いました。 この

飲める空間にしたいと思っています。 りダメージがあ 名な画家ですので、 大渓を主役とした絵本を地元の子ども達に語っていくことはとても意味のあることだと思います。 に色塗りをしてもらうように道具を提供しました。毎日子ども達がここにきて楽しくお絵描きを で修復しました。 えた所があります。 していました。地元のおかあさんたちと協力して、絵本の物語を語るというイベントもやりました。 今年から家屋の整備をしています。 その後、ボランティアが街を案内するときに、 まず壁際に溝をつくり、 ろいろなワークショップもやってきました。例えば鐵州がかいていたトリの像を、子ども達 トで修繕をしていました。 すべての窓や扉を整理したりするという、 りましたので、従来の修繕方法にのっとってやりました。前のオーナーはコンク 四月には蘭室書庫を開店しようと思っていましたので、それを控えて掃除をし ここにおいている本もその絵を紹介するものが多いです。 外の部分が内部より高かったので、床にレトロっぽいブロックをつかいまし 炭をいれました。この炭が湿気をとってくれます。 私達のメン 床はもともとコンクリートでしたが、 バーのなかには専門家がいますので、 かならず蘭室を訪れることになっています。 かなりおおがかりの作業をしました。 入口 将来的にはお茶も 伝統的なやり方 壁の方にもかな の部分を作り替 鐵州は有

か もやりました。 したが、このような雰囲気を楽しめるのはここでしかできないのではないかと思います。 った人も見てみようかなという雰囲気がありました。 また、このような古い家屋が過去にやっていた経験をシェアするト 屋外映画館もやりました。 大渓ではこういった特殊なタイルなどの建築がありま 例えば、 その日に放映されていたのは、 ークショー などのイ 通りが ベント

の後も度々大渓に戻ってきて、

いろんな写生をしました。

蘭室は歴史的建造物として登録されました。古い建物を修繕



写真⑥ 中庭の薪棚



子ども向けの描きのワーク ショップ

0

時代の文化人が、

時代の変化の

私達もあえて

じらずにそのまま表現し

います。

\ 西洋文

いまはなかなか他のところでは見ら

むき出しにしているのは、

この建築そのものがそうです。ここを訪れてくれた人す

ったのは展示品ではなくこの建築でした。

私個人の見解ですが、

この空間自体が時代文化の展示品

った地方産業の活性化は地域づくりの基礎だと考えてい

将来も活性化させていきます。



呂鐡州の画集作品を展示して講 座をも開催しました

か放映する機会がありませんでしたので、

二〇年くらいまえのドキュメンタリ

映画でしたが、

なかな

製作に関わった人

ガッ

高価です。

現在は改良されて安い

ガッシュもありますので、

きをするというワークショップもやっていました。

蘭室という空間ですが、

う展示もやってきました。

子ども達がきてい

っしょにお絵描

是非その改良とともにガッシュという芸術をひろめたいとい

は鉱物を粉にして、顔料でつくった材料ですのでとても

クショーもやりました。あとガッシュの展示です。

努力がみられると思います。 ながら、 古い建築の美しさをいかに残そうとしたか、 このような長屋形式

の建物

またお茶の体験コー めた有名な方ですの の建築のなかには、ご覧の通り、 なので地元にとっ 大渓は昔お茶の産地でした。こちらで生産したお茶は大漢渓を通じて、 かと思 心います。 で、 スもありました。 第二段階では茶室を作って開放しようと考えました。 て重要なお茶をじっ をあおいでみるの さんは二〇〇二年に亡くなりましたが、 山の方にきてい ンビが描かれ していました。 キュメンタリー ガッシュ 鐵州と彼の弟子が国家美術館で展示をやっていました。 上部に装飾されてい の歴史そのものではないかと思いまして、 きていただいた先生は、 天井から太陽光がはい 7 を撮ったときに協力をしました。 で、 くりこの空間で楽しめるの なかなか詳しくみ のほうには、ちゃんと、 た彫刻作品です。 ŋ ますので、それを利用して アメリカで広くお茶の文化をひろ この れませんが、 二人が百年くら は 鷹揚の名前からとって ルもそうです 13 いまは下に立 13 どうしてお茶か んじゃない 私達も美術 写真にとっ 輸出され その 61 います。 ていき 0 の台 お弟子 か 館 7

では

をもう一度整備

して開放することによって、

現代

のみなさんも昔の文化

人の生活を感じとれる

ħ 7 ール 61 ・ます。 」という文字が入って います。 自分の名前を、 先ほどの蘭室のタ 建物をつくったときにい いました。 ん中の 上にはト n たとい ・ビが 右 て記 0

ことですね。茶室のメニューのなかにもそういった彫刻の作品をとりいれています。

この青もとりいれようと思いました。 としました。もう一つは、鐵州の絵のなかには山娘という台湾の特有種の鳥が描かれましたが、 てきたのが、赤です。素晴らしいと思い、そのまま残しています。なのでこの赤をメインカラー していました。ではそのペンキの奥がどんな色だったのかと思ってはがしみました。最終的にで 蘭室の色をどうするか考えていましたが、これまでは、ペンキで何層もぬって、前の色をカバー

を積極的に収集したりしてきました。その収集した結果は現在ここで展示しています。 だきたいと思っています。 呂さんの子孫が戻るときには、私達にとても感謝してくれます。建物自体はすでに私達が購入し ばったのですか」と言われますが、どちらかというと私が選ばれたという感じなんです。現在、 えていました。私は呂さんの家族とはなんのいわれもありませんので、 ているので、所有権は私達にありますが、彼等を歓迎し、 し詳しいフィールドワーク調査をして、具体的なイメージで鷹揚のイメージをだせない 現在は、 「蘭室の歴史と今」を展示しています。 彼等にインタビューをしたり、 鷹揚とこの地方に関することですが、 あるいは彼等がもっている新聞や資料 いらっしゃるときには、はいっていた よく「なぜこんなにがん かなと考 もう少

た要素をつかって続けて活性化して行きたいと思います。 室というのはもともとたくさんの要素がこめられている空間ですので、 これからもそうい

### おわりに

### 日髙 真吾

う発表がなされていたと思います。 ら、地域住民とともに地域活動を展開していく、そういう視点での発表をさせていただきました。 それぞれ発表をしてまいりました。日本側の発見に関しては、 台湾側の発表は住民主導型の地域活動を博物館等が支援をおこないながら広く展開しているとい 今回のこのフォーラムでは、日本と台湾の地域文化の発見、 保存、そして活用というテーマで 大学や博物館がはたらきかけなが

動をもってきかせていただきました。 特に本日の、 大渓在住の方が力強く活動されているという発表は、 ほんとうに大きな驚きと感

るのではないかと思いました。 心としながら、 りました。それは何れの話も活動の中心に地域の人がいるということで、そして、地域住民を中 これらの報告をきいていて、日本側、 博物館、大学、 研究者といった人達が、 台湾側、 相方で共通している点もあると感じることもあ つながっていくという構図が共通して

回のポスターはそれぞれの特性を活かしながら、腕を組み合って進めていくというデザインになっ ています。 確かに今回報告された活動はそれぞれ異なる立場の人達があつまって行っているわけですが、 とてもこのフォーラムの意を得たポスターデザインだったのではないかと思います。

に伝えていくことにつながっていくテーマだと思っています。 今回のテーマである地域文化の発見、保存、活用ということは、 地域文化を継承し、 次の世代

の地域文化についての意味を発見し、 いことだと思っています。 ただし、この次世代への地域文化の継承を実現する為には、 それを伝えて行く意義を感じとらなければスタートできな いまここにいる私達の世代が、そ

いった具体的な活動が始まっていくということなんだと思います。そのスタートをきったあと、次の世代に伝えていくための、保存であったり活用であったりと

ではないかと考えています。 このような点というのが、 今回の報告、あるいはディスカッションから見えてきた大きな成果

実施してきました。 今回のこのフォーラムは、 台北芸術大学そして私達国立民族学博物館の協定事業の一環として

ご協力をいただきました。お礼を申しあげたいと思います。これで私の挨拶とさせいただきます。 この企画を実現するためには大渓の木芸生態博物館の陳館長をはじめとするみなさんに大変な

### 小谷 竜介

所 属 東北歴史博物館

専門分野 日本民俗学

著作『鮭〜秋味を待つ人々〜』(東北歴史博物館、2003年)、『波 伝谷の民俗』(政岡伸洋、鈴木卓也と共監、東北歴史博物館、 2008年)など

### 謝 仕淵

所 属 国立台湾歴史博物館

専門分野 物質文化史、パブリック・ヒストリー、オーラル・ヒストリー と記憶遺産

著作『「国球」誕生前記:日治時期台湾棒球史』(国立台湾歴史博物館、2013年)、『日治時期台湾棒球口述訪談』(国立台湾歴史博物館、2013年)など

### 林 奠鴻

所 属 財団法人大二結文化財団

専門分野 まちつくり、文化財の保存と活性化

### 許 主冠

所 属 台湾城鄉特色発展協会

専門分野 まちつくり、文化財

### 日髙 真吾

所 属 国立民族学博物館

専門分野 保存科学、保存修復

著 作 『災害と文化財―ある文化財科学者の視点から』(千里文化財団、2015年)、『女乗物―その発生経緯と装飾性』(東海大学出版会、2008年)、『記憶をつなぐ―津波被害と文化遺産』(日髙真吾編、千里文化財団、2012年)など

### 黄 貞燕

所 属 国立台北芸術大学博物館研究所

専門分野 博物館と地域社会、無形文化遺産学

客 作 『日韓無形的文化財保護制度』(國立傳統藝術總處籌備處、 2008年)、『2005-2008年臺灣無形文化資產保存年鑑』(行政 院文化建設委員會文化資產總管理處籌備處、2009年)、『民 俗/民族文化的蒐藏與博物館』(國立臺北藝術大學、2011年) など

### 政岡 伸洋

所 属 東北学院大学

専門分野 民俗学、日本史学、アジア文化史

著作『図解雑学こんなに面白い民俗学』(八木透と共編著、ナツメ社、2004年)、『仙台の祭りを考えるための視点と方法』 (大崎八幡宮仙台・江戸学実行委員会、2014年)など

### 康 文榮

所 属 楊逵文学記念館諮問委員、寿香食品股份有限公司

157

### 温 欣琳

所 属 桃園市立大溪木芸生熊博物館

専門分野 地方産業と民俗調査研究、展示企画及び設計

著作「Interpreting the Industrial Heritage: A Case Study on Kaohsiung Sugar Refinery」(国立台北芸術大学大学院博物館研究科修士論文、2010年)

### 古 正君

所 属 大渓古家 専門分野 資源統合

### 劉清剋

所 属 下街四十番地アトリエ

専門分野 台湾の伝統的な仏像彫刻、紙紮、捏麺

### 林 昕

所 属 蘭室文創株式会社

専門分野 まちつくり

### 末森 薫

所 属 関西大学国際文化財・文化研究センター

専門分野 文化財科学、文化財保存科学

著作『麦積山石窟環境与保護調査報告書』(共著、文物出版社、 2011年)など

### 伊達 仁美

所 属 京都造形芸術大学

専門分野 民俗文化財の保存修復ならびに活用

### 陳 倩慧

所 属 桃園市立大渓木芸生態博物館

専門分野 コミュニティ開発、文化財の保存、博物館

### 平井 京之介

所 属 国立民族学博物館

専門分野 社会人類学、東南アジア研究、日本研究

著作『微笑みの国の工場――タイで働くということ』(臨川書店、2013年)、『村から工場へ――東南アジア女性の近代化経験』(NTT出版、2011年)、『実践としてのコミュニティ――移動・国家・運動』(編著、京都大学学術出版会、2012年)

159

人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト 「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」ブックレット 新しい地域文化研究の可能性を求めて vol.4 地域文化の発見、保存と活用

発行日/2018年3月30日

編者/日髙真吾

発 行/人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト 「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」

印 刷/特定非営利活動法人 Knit-K